

この「答えとてびき」はとりはずしてお使いください。



教科書ぴったりトレーニング

# 答えとてびき

東京書籍版 算数 5年



● **もんだい 問題がとけたら...**

- ① まずは答え合わせをしましょう。
- ② 次にてびきを読んでかくにんしましょう。

**🏠 おうちのかたへ** では、次のようなものを示しています。

- ・学習のねらいやポイント
- ・他の学年や他の単元の学習内容とのつながり
- ・まちがいがやすいことやつまづきやすいところ

お子様への説明や、学習内容の把握などにご活用ください。

**🕒 しあげの5分レッスン** では、

学習の最後に取り組む内容を示しています。  
学習をふりかえることで学力の定着を図ります。

**答え合わせの時間短縮に 丸つけラクラク解答 デジタルもご活用ください!**

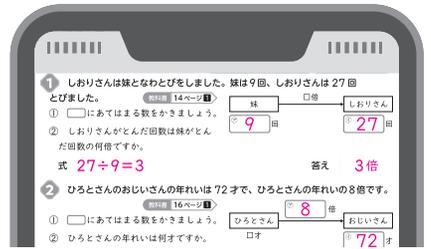
右の QR コードをスマートフォンなどで読み取ると、赤字解答の入った本文紙面を見ながら簡単に答え合わせができます。



丸つけラクラク解答デジタルは以下の URL から確認できます。

<https://www.shinko-keirinwebshop.com/shinko/2024pt/rakurakudegi/MT55da/index.html>

※丸つけラクラク解答デジタルは無料でご利用いただけますが、通信料金はお客様のご負担となります。  
※QR コードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



## 1 整数と小数

**びったり1 準備** 2ページ

- 1 (1)① 5    ② 6    ③ 1    ④ 3  
 (2)⑤ 5    ⑥ 6    ⑦ 1    ⑧ 3    ⑨ 0.6    ⑩ 0.01    ⑪ 0.003
- 2 ① 右    ② 472.1    ③ 4721    ④ 左    ⑤ 4.721    ⑥ 0.4721

**びったり2 練習** 3ページ

- 1 ①ア 5    イ 4    ウ 3    エ 2  
 オ 1  
 ②ア 2    イ 0    ウ 1    エ 3  
 オ 5
- 2 ① >    ② <    ③ >
- 3 ① 8こ    ② 402こ    ③ 3600こ

- 1 ② 10     $\times 2 = 20$   
 1     $\times 0 = 0$   
 0.1     $\times 1 = 0.1$   
 0.01     $\times 3 = 0.03$   
 0.001     $\times 5 = 0.005$   
 あわせて 20.135
- 2 ③  $27.4 - 4 = 23.4$   
 なので、 $27 > 23.4$   
 だから、 $27 > 27.4 - 4$

**てびき**

✂ 不等号  
 小 < 大  
 大 > 小

- 3 ③
- |     |      |       |        |
|-----|------|-------|--------|
| 一の位 | 10の位 | 100の位 | 1000の位 |
| 3   | 6    | 0     | 0      |
| 0   | 0    | 0     | 1      |
- 0.001が3600こ

- 4 ①ア 24.7    ① 247    ウ 2470  
 ②ア 86.3    ① 8.63    ウ 0.863

- 5 ①ア 10倍    ① 100倍    ウ 1000倍  
 ②ア  $\frac{1}{10}$     ①  $\frac{1}{100}$     ウ  $\frac{1}{1000}$

- 6 ① 41.3    ② 57300    ③ 381  
 ④ 6.59    ⑤ 0.07164    ⑥ 0.138

4 ①

千の位	百の位	十の位	一の位	$\frac{1}{10}$ の位	$\frac{1}{100}$ の位	$\frac{1}{1000}$ の位
			2	4	7	
		2	4	7		
2	4	7	0			

10倍  
100倍  
1000倍

0をわすれずに。

②

	8	6	3			
		8	6	3		
			8	6	3	
			0	8	6	3

$\frac{1}{10}$   
 $\frac{1}{100}$   
1000

🎯 **しあげの5分レッスン** まちがえた問題をもう1回やってみよう。

**ぴったり3 確かめのテスト**

4~5 ページ

てびき

- 1 ① 3    ② 0.001

- 2 ①ア 7    ① 0    ウ 5  
 ②ア 3    ① 2    ウ 4    エ 8

- 3 ① 3015こ    ② 20000こ

- 4 ① 1000倍    ② 100000倍  
 ③ 100倍

- 5 ①  $\frac{1}{10}$     ②  $\frac{1}{1000}$     ③  $\frac{1}{100}$

- 6 ① 72.9    ② 430    ③ 0.106  
 ④ 0.0528

1

一の位	$\frac{1}{10}$ の位	$\frac{1}{100}$ の位	$\frac{1}{1000}$ の位
1	4	3	5

①  $\frac{1}{100}$ の位の数字は3です。

② 「5」は、 $0.001$  ( $\frac{1}{1000}$ ) が5こあることを表しています。

3 ①

3	0	1	5
0	0	0	1

0.001が3015こ

②

2	0	0	0	0
0	0	0	1	

0.001が20000こ

4 小数や整数を10倍、100倍、1000倍、…すると、位は、それぞれ1けた、2けた、3けた、…ずつ上がります。

小数点は、それぞれ右に1けた、2けた、3けた、…うつります。

- ① 0.032    ② 0.032    ③ 0.032
- 右に3けた    右に5けた    右に2けた
32.    3200.    3.2

5 ④と反対に、小数や整数を $\frac{1}{10}$ 、 $\frac{1}{100}$ 、 $\frac{1}{1000}$ 、…にすると、位は、それぞれ1けた、2けた、3けた、…ずつ下がります。

小数点は、それぞれ左に1けた、2けた、3けた、…うつります。

- ① 86.4    ② 86.4    ③ 86.4
- 左に1けた    左に3けた    左に2けた
- 8.64    0.0864    0.864

- 6 ① 7.29 → 72.9    ② 4.3 → 430  
 小数点が右に1けたうつる。    右に2けたうつる。
- ③ 1.06 → 0.106    ④ 5.28 → 0.0528  
 小数点が左に1けたうつる。    左に2けたうつる。

- 7 ① 423      ② 380  
 ③ 8250      ④ 67.59  
 ⑤ 0.074      ⑥ 0.01286

- 8 ① 97.541      ② 49.751

- 9 ① 2.468      ② 8.642

- 8 ① 大きい数字を、上の位に置くと、大きな数ができます。

② 50より大きく、50にいちばん近い数は、  
 51.479 ←十の位に5、以下小さい順に置く。

50より小さく、50にいちばん近い数は、  
 49.751 ←十の位に4、以下大きい順に置く。

この2つの数のうち、50との差が小さい数が答えになります。

- 9 8とちがひ、小数点のカードもある問題です。

① 小さい数をつくるには、小数点のカードをなるべく上の位に置きます。いちばん上の位には置けないので、左から2番めに置きます。

□.□□□□ あとは、小さい数字から順に左から置きます。

② 8.□□□□ あとは、大きい数字から順に左から置きます。

## 2 直方体や立方体の体積

### びっぴり1 準備 6ページ

- 1 (1) 3、3      (2) 2、2  
 2 (1) 3、5、2、30      (2) 4、4、4、64  
 3 ① 3      ② 5      ③ 2      ④ 24      ⑤ 40      ⑥ 64

### びっぴり2 練習 7ページ

てびき

- 1 ①  $54 \text{ cm}^3$       ②  $64 \text{ cm}^3$   
 2 ①  $2 \text{ cm}^3$       ②  $2 \text{ cm}^3$   
 3 ①  $96 \text{ cm}^3$       ②  $180 \text{ cm}^3$   
 ③  $343 \text{ cm}^3$       ④  $90000 \text{ cm}^3$   
 ⑤  $200000 \text{ cm}^3$       ⑥  $960000 \text{ cm}^3$   
 4 ①  $84 \text{ cm}^3$       ②  $1790 \text{ cm}^3$

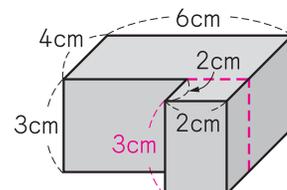
1 ①  $1 \text{ cm}^3$ の立方体が、1だんめに $3 \times 6$ (こ)ならば、これが3だんあるので、全部の数は、  
 $3 \times 6 \times 3 = 54$ (こ)で、 $54 \text{ cm}^3$

2 ① たてが $1 \text{ cm}$ 、横が $1 \text{ cm}$ 、高さが $0.5 \text{ cm}$ の直方体を2つ合わせると、 $1 \text{ cm}^3$ の立方体になります。  
 ② 全部で $1 \text{ cm}^3$ の立方体が2こ分です。

3 ✂ 長さの単位をそろえて、次の公式を使おう。  
 直方体の体積 = たて  $\times$  横  $\times$  高さ  
 立方体の体積 = | 辺  $\times$  | 辺  $\times$  | 辺

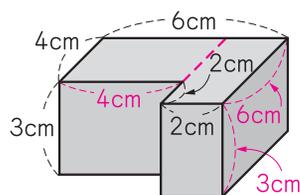
④  $1 \text{ m} = 100 \text{ cm}$ なので、  
 $100 \times 30 \times 30 = 90000 (\text{cm}^3)$   
 ⑥  $2 \text{ m} = 200 \text{ cm}$ なので、  
 $60 \times 200 \times 80 = 960000 (\text{cm}^3)$

4 ① (例1)下の図のように、前と後ろの2つの直方体に分けると、  
 $4 \times 6 \times 3 + 2 \times 2 \times 3 = 84 (\text{cm}^3)$

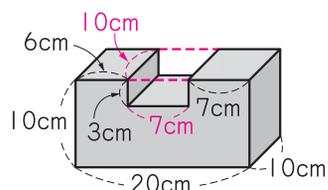


(例2)下の図のように、左と右の2つの直方体に分けると、

$$4 \times 4 \times 3 + 6 \times 2 \times 3 = 84(\text{cm}^3)$$



② (例)大きな直方体からへこんだところをひくと、  
 $10 \times 20 \times 10 - 10 \times 7 \times 3 = 1790(\text{cm}^3)$



**あけの5分レッスン** ④について、別の方法で求めてみよう。

**ぴったり1 準備** 8ページ

- 1 (1)① 3    ② 3    ③ 3    ④ 27    ⑤ 27  
 (2)⑥ 2    ⑦ 6    ⑧ 4    ⑨ 48    ⑩ 48

- 2 ① 100    ② 100    ③ 100    ④ 100    ⑤ 100    ⑥ 100    ⑦ 1000000  
 ⑧ 1000000

- 3 ① 30    ② 50    ③ 20    ④ 30    ⑤ 50    ⑥ 20    ⑦ 30000    ⑧ 30000  
 ⑨ 30    ⑩ 30

**ぴったり2 練習** 9ページ

てびき

- 1 ①  $144 \text{ m}^3$     ②  $125 \text{ m}^3$     ③  $96 \text{ m}^3$

- 2 ① 1000000    ② 20000000  
 ③ 4    ④ 6

- 3 ① たて…20 cm    横…50 cm  
     深さ…40 cm  
 ②  $40000 \text{ cm}^3$   
 ③ 40 L

1 ✂ 次の公式を使おう。  
 直方体の体積 = たて × 横 × 高さ  
 立方体の体積 = | 辺 × | 辺 × | 辺

- ①  $6 \times 4 \times 6 = 144(\text{m}^3)$   
 ②  $5 \times 5 \times 5 = 125(\text{m}^3)$   
 ③  $4 \times 8 \times 3 = 96(\text{m}^3)$

- 2 ① ✂  $1 \text{ m}^3 = 1000000 \text{ cm}^3$   
 ②  $20 \text{ m}^3$  は、  
 $1000000 \times 20 = 20000000(\text{cm}^3)$   
 ③  $4000000 \text{ cm}^3$  は、  
 $4000000 \div 1000000 = 4(\text{m}^3)$

- 3 ① 内のりは、  
 たて  $24 - 2 \times 2 = 20(\text{cm})$   
 横  $54 - 2 \times 2 = 50(\text{cm})$   
 深さ  $42 - 2 = 40(\text{cm})$   
 ②  $20 \times 50 \times 40 = 40000(\text{cm}^3)$   
 ③  $40000 \text{ cm}^3$  は、  
 $40000 \div 1000 = 40(\text{L})$

- 4 ① 1000 ② 8  
③ 1 ④ 1000

- 5 ① 1 ② 100 ③ 1  
④ 1 ⑤ 1 ⑥ 1

**おうちのかなへ** 単位に関する問題は、子どもにとって抵抗が大きいものです。1mのものさしやテープなどを使って1m<sup>3</sup>の大きさを作らせるなどすると、イメージがわくでしょう。容積では、内のりを調べる時、縦、横には厚さが2か所、深さには厚さが1か所含まれていることを見落としがちなので注意させましょう。

**しあげの5分レッスン** 245をもう一度おさらいしておこう。

- 4 ①  内のりのたて、横、深さがどれも10cmの入れ物に入る水の量が1Lなので、  
 $1L = 1000\text{ cm}^3$

- ② 8000 cm<sup>3</sup> は、  
 $8000 \div 1000 = 8(\text{L})$   
③ 1L = 1000 mL、1L = 1000 cm<sup>3</sup> なので、  
 $1000\text{ mL} = 1000\text{ cm}^3$  になります。  
1 mL = 1 cm<sup>3</sup> です。  
④ 1 m<sup>3</sup> = 1000000 cm<sup>3</sup>、1 L = 1000 cm<sup>3</sup> なので、1 m<sup>3</sup> は、  
 $1000000 \div 1000 = 1000(\text{L})$

- 5 ⑥ 1 m<sup>3</sup> = 1000 L、1000 L = 1 kL

**ひょうたん3 確かめのテスト**

10~11 ページ

てびき

- 1 ① 20 ぶん  
② 20 cm<sup>3</sup>  
2 ①ア たて ① 横 ③ 高さ  
②ア 1 辺 ① 1 辺 ③ 1 辺  
3 ① 1000000 ② 7  
③ 1000 ④ 500  
4 ① 式  $12 \times 12 \times 12 = 1728$  答え 1728 cm<sup>3</sup>  
② 式  $6 \times 8 \times 4 = 192$  答え 192 m<sup>3</sup>  
③ 式  $100 \times 30 \times 120 = 360000$   
答え 360000 cm<sup>3</sup>  
④ 式  $5 \times 12 \times 8 = 480$  答え 480 m<sup>3</sup>  
5 式  $40 \times 50 \times 30 = 60000$   
 $60000\text{ cm}^3 = 60\text{ L}$  答え 60 L  
6 式  $4 \times 5 \times 2 = 40$  答え 40 cm<sup>3</sup>

- 7 式 (例)  $20000\text{ L} = 20\text{ m}^3$   
 $2 \times 5 \times \square = 20$   
 $\square = 20 \div 10$   
 $= 2$  答え 2 m

- 1 ① 1 だんめに、 $2 \times 5$ (こ)ならび、2 だんあるので、  
全部の数は、 $2 \times 5 \times 2 = 20(\text{こ})$

- 3 ② 7000000 cm<sup>3</sup> は、  
 $7000000 \div 1000000 = 7(\text{m}^3)$

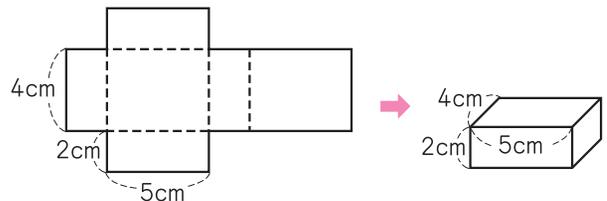
- ④  1L = 1000 mL、1L = 1000 cm<sup>3</sup> なので、1 mL = 1 cm<sup>3</sup> だね。

- 4  長さの単位をそろえてから、2の公式を使おう。

- ④ 1 m = 100 cm なので、500 cm = 5 m

- 5 この水そうの内のりは、たて40 cm、横50 cm、深さ30 cmです。まず、何cm<sup>3</sup>かを求めます。  
1L = 1000 cm<sup>3</sup>であることを使います。

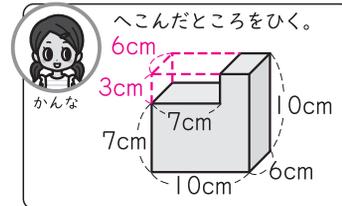
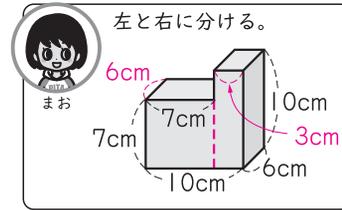
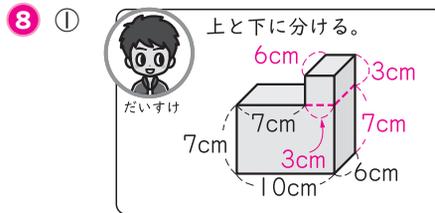
- 6 この展開図を組み立ててできる直方体は、下の図のようになります。



- 7  1 m<sup>3</sup> = 1000000 cm<sup>3</sup>、1 L = 1000 cm<sup>3</sup> なので、1 m<sup>3</sup> = 1000 L

- 20000 L は、 $20000 \div 1000 = 20(\text{m}^3)$

- 8 ① だいすけ  
 $6 \times 3 \times 3 + 6 \times 10 \times 7 (=474)$   
 まお  
 $6 \times 7 \times 7 + 6 \times 3 \times 10 (=474)$   
 かな  
 $6 \times 10 \times 10 - 6 \times 7 \times 3 (=474)$
- ②  $474 \text{ cm}^3$



### 3 比例

#### ぴったり1 準備 12ページ

- 1 (1)① 12 ② 18 ③ 24 ④ 30 ⑤ 36 ⑥ 2 ⑦ 3 ⑧ 2  
 ⑨ 2 ⑩ 3 ⑪ 比例  
 (2)⑫ 比例 ⑬ 10 ⑭ 10 ⑮ 60

#### ぴったり2 練習 13ページ

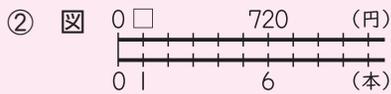
てびき

- 1 ① 比例している。 ② 比例していない。  
 2 ① 140、210、280、350、420、490、560  
 ②ア 2 ① 3 ウ 2  
 ③ 比例している。  
 ④  $70 \times \square = \bigcirc$   
 ⑤カ 10 キ 10 ク 10  
 式  $70 \times 10 = 700$  答え 700円
- 1 ①  $\square \text{ cm}$  が2倍、3倍、…になると、 $\bigcirc \text{ cm}$  も2倍、3倍、…になっています。  
 ②  $\square$  分間が2倍、3倍、…になっても、 $\bigcirc \text{ L}$  は2倍、3倍、…になっていません。  
 2 ⑤ ④の式で、 $\square$  が10のときです。  
 代金は本数に比例しているの、本数が10倍になると、代金も10倍になります。

#### ぴったり3 確かめのテスト 14~15ページ

てびき

- 1 ① 30、60、90、120、150、180  
 ② 2倍、3倍、…になる。  
 ③ 比例している。  
 ④ア 15  
 式  $30 \times 15 = 450$  答え 450円
- 2 ① 比例していない。 ② 比例している。
- 3 ① 図
- 
- 式  $15 \times 8 = 120$  答え 120円
- 1 ④ 数直線の図で、アが15のときになります。  
 2 ①  $\square$  人が2倍、3倍、…になっても、 $\bigcirc \text{ m}$  は2倍、3倍、…になっていません。  
 ②  $\square \text{ cm}$  が2倍、3倍、…になると、 $\bigcirc \text{ cm}^3$  も2倍、3倍、…になっています。  
 3 ① 色画用紙 $\square$ まいのときの代金を $\bigcirc$ 円とします。
- |          |    |    |    |    |    |    |
|----------|----|----|----|----|----|----|
| まい数□(まい) | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 代金○(円)   | 15 | 30 | 45 | 60 | 75 | 90 |
- 代金 $\bigcirc$ 円は、まい数 $\square$ まいに比例しています。



式 (例)  $\square \times 6 = 720$

$\square = 720 \div 6$

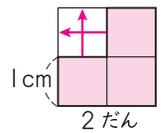
$= 120$

答え 120円

- ④ ① 4、8、12、16、20、24、28  
 ② 比例している。  
 ③  $4 \times \square = \bigcirc$  ( $\square \times 4 = \bigcirc$ )  
 ④ 72 cm  
 ⑤ 25 だん

② ボールペンの代金は、本数に比例しています。  
 本数が6倍になれば、代金も6倍になること  
 から、関係を式に表すと、 $\square \times 6 = 720$

- ④ ① 右の図のように、辺を動かすと、2だんのとときのまわりの長さは、1辺の長さが  
 ② cmの正方形のまわりの長さと同じになります。



- ② ①の表から、だんの数□だんが2倍、3倍、...になると、まわりの長さ○cmも2倍、3倍、...になっています。  
 ④ ③の式で、□が18のときなので、  
 $4 \times 18 = 72(\text{cm})$   
 ⑤  $1 \text{ m} = 100 \text{ cm}$   
 ③の式で、○が100のときなので、  
 $4 \times \square = 100$   $\square = 100 \div 4 = 25$

## 4 小数のかけ算

### びっぴり1 準備 16 ページ

- ① ① 60 ② 1.8 ③ 10 ④ 18 ⑤ 10 ⑥ 18 ⑦ 108  
 ⑧ 10 ⑨ 18 ⑩ 10 ⑪ 18 ⑫ 10 ⑬ 108 ⑭ 108  
 ② (1) 20.40 (2) 0.576

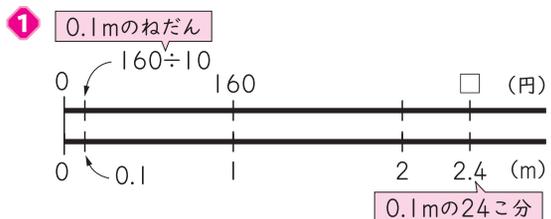
### びっぴり2 練習 17 ページ

- ① ア 160 ① 10 ウ 24 ⑤ 384  
 カ 160 ⑥ 24 ⑦ 10 ⑧ 384  
 答え 384円

- ② 10、10、100、181.44 答え 181.44 g

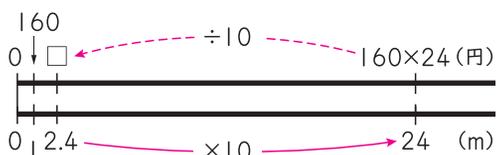
- ③ ① 990.6 ② 990.6 ③ 9.906

### てびき



2.4 mの代金は、0.1 mのねだんの24倍なので、  
 2.4 mの代金を求める式は、

$160 \times 2.4 = 160 \div 10 \times 24$



2.4 mの代金は、24 mの代金を10でわればよいので、2.4 mの代金を求める式は、

$160 \times 2.4 = 160 \times 24 \div 10$

- ②  $32.4 \times 5.6 = \square$   
 $\downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 100 \quad \div 100$   
 $324 \times 56 = 18144$

- ③ ①  $25.4 \times 39$   
 $= (25.4 \times 10) \times 39 \div 10 = 254 \times 39 \div 10$   
 ③  $2.54 \times 3.9$   
 $= (2.54 \times 100) \times (3.9 \times 10) \div 1000$   
 $= 254 \times 39 \div 1000$

4 ① 6.417    ② 35.67    ③ 1058.4

4 ①  $\begin{array}{r} 279 \\ \times 23 \\ \hline 837 \\ 558 \\ \hline 6417 \end{array}$     ②  $\begin{array}{r} 41 \\ \times 87 \\ \hline 287 \\ 328 \\ \hline 3567 \end{array}$     ③  $\begin{array}{r} 196 \\ \times 54 \\ \hline 784 \\ 980 \\ \hline 10584 \end{array}$

5 ① 55.8    ② 0.414

5 ①  $\begin{array}{r} 465 \\ \times 12 \\ \hline 930 \\ 465 \\ \hline 5580 \end{array}$     ②  $\begin{array}{r} 0.23 \\ \times 1.8 \\ \hline 184 \\ 23 \\ \hline 0.414 \end{array}$

右はしの0を消す。    一の位に0を書く。

**おうちのかたへ** 小数のかけ算は、筆算のしかたを機械的に覚え、計算練習をつむことに終始しがちです。小数をかける計算のしくみをしっかりと理解させてから計算練習を行わせたいものです。

**ぴったり1 準備** 18 ページ

- 1 ① <    ② ①、ウ  
 2 ① 2    ② 1.5    ③ 2.3    ④ 6.9    ⑤ 6.9  
 3 (1) 4、10    (2) 5.3、10

**ぴったり2 練習** 19 ページ

アビキ

- 1 ①  
 2 ① 1.02    ② 0.24    ③ 1

2 ③  $\begin{array}{r} 1.25 \\ \times 0.8 \\ \hline 1.000 \end{array}$

小数点より右にあり、右はしから続く0を消す。

3 ① 1.44 cm<sup>2</sup>    ② 0.56 m<sup>3</sup>

- 3 ① 1.2 × 1.2 = 1.44 (cm<sup>2</sup>)  
 ② 0.5 × 0.8 × 1.4 = 0.56 (m<sup>3</sup>)

- 4 ①  $9.2 \times 2.5 \times 4$   
 $= 9.2 \times (2.5 \times 4)$   
 $= 9.2 \times 10 = 92$   
 ②  $6.7 \times 8 \times 2.5$   
 $= 6.7 \times (8 \times 2.5)$   
 $= 6.7 \times 20 = 134$   
 ③  $4 \times 6.59 \times 2.5$   
 $= 6.59 \times 4 \times 2.5$   
 $= 6.59 \times (4 \times 2.5)$   
 $= 6.59 \times 10 = 65.9$   
 ④  $0.7 \times 9.8 + 0.3 \times 9.8$   
 $= (0.7 + 0.3) \times 9.8$   
 $= 1 \times 9.8 = 9.8$   
 ⑤  $6.2 \times 8.7 + 3.8 \times 8.7$   
 $= (6.2 + 3.8) \times 8.7$   
 $= 10 \times 8.7 = 87$   
 ⑥  $2.7 \times 45 - 0.7 \times 45$   
 $= (2.7 - 0.7) \times 45$   
 $= 2 \times 45 = 90$

4 **✂** 式の形から使う計算のきまりを見つけよう。

ア  $\blacksquare \times \bullet = \bullet \times \blacksquare$   
 ①  $(\blacksquare \times \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times (\bullet \times \blacktriangle)$   
 ウ  $(\blacksquare + \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times \blacktriangle + \bullet \times \blacktriangle$   
 エ  $(\blacksquare - \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times \blacktriangle - \bullet \times \blacktriangle$

- ①② 計算のきまり①を使います。  
 ③ 計算のきまりア、①を使います。  
 ④～⑥ 計算のきまりウやエを使います。  
 ⑦ 25.6 = 25 + 0.6 だから、計算のきまりウが使えます。  
 ⑧ 9.5 = 10 - 0.5 だから、計算のきまりエが使えます。



- 5 ① 式  $95 \times 8.4 = 798$  答え 798円  
 ② 式  $5.9 \times 7.3 = 43.07$  答え 43.07 kg

6 35.5



ホースの代金は、長さひれいに比例しているため、長さが8.4倍になると、代金も8.4倍になります。

- 6 ある数を□とすると、 $14.2 + \square = 16.7$   
 $\square = 16.7 - 14.2 = 2.5$   
 正しい答えは、 $14.2 \times 2.5 = 35.5$

## 5 小数のわり算

### びったり1 準備 22 ページ

- 1 ① 80 ② 1.6 ③ 16 ④ 16 ⑤ 16 ⑥ 10 ⑦ 50  
 ⑧ 10 ⑨ 10 ⑩ 10 ⑪ 10 ⑫ 16 ⑬ 50 ⑭ 50
- 2 (1) 1.6 (2) 0.6 (3) 2.5

### びったり2 練習 23 ページ

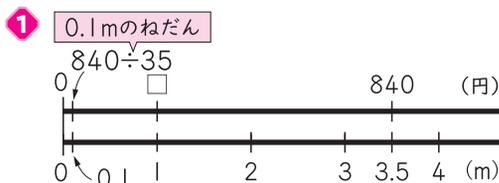
てびき

- 1 ア 840 イ 35 ウ 10 エ 240  
 カ 840 キ 10 ク 35 ケ 240  
 答え 240円

2 10、0.7 答え 0.7 kg

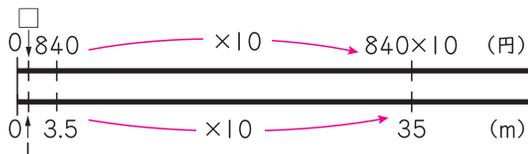
3 ① 6.5 ② 6.5 ③ 6.5

4 ① 1.7 ② 2.8 ③ 5



3.5 mの代金は、0.1 mのねだんの35倍なので、1 mのねだんを求める式は、

$$840 \div 3.5 = 840 \div 35 \times 10$$

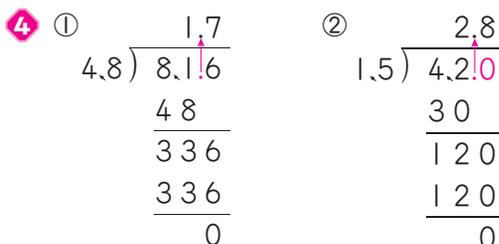


35 mの代金は、3.5 mの代金の10倍なので、1 mのねだんを求める式は、

$$840 \div 3.5 = 840 \times 10 \div 35$$

- 2  $2.94 \div 4.2 = \square$   
 $\downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10$   
 $29.4 \div 42 = 0.7$  等しい

- 3 ②  $3.51 \div 0.54$   
 $= (3.51 \times 100) \div (0.54 \times 100) = 351 \div 54$



5 ① 0.7 ② 0.75 ③ 2.5

5 ② 
$$\begin{array}{r} 0.75 \\ 6.8 \overline{) 51.0} \\ \underline{476} \\ 340 \\ \underline{340} \\ 0 \end{array}$$
 ③ 
$$\begin{array}{r} 2.5 \\ 1.6 \overline{) 4.00} \\ \underline{32} \\ 80 \\ \underline{80} \\ 0 \end{array}$$

51.0と考える。

**びったり1 準備** 24 ページ

1 ① < ② ①、ウ

2 (1) 3、0.9 (2) 4、1.1 (3) 43、0.6

(検算)(1) 2.6、3、0.9、8.7 (2) 4.2、4、1.1、17.9 (3) 5.8、43、0.6、250

**びったり2 練習** 25 ページ

てびき

1 ア、ウ

2 ① 78 ② 5.35 ③ 22.5

3 3 答え 約 2.1

4 ① 式  $4.7 \div 0.6 = 7$  あまり 0.5  
 答え 7個に入れられて、0.5L あまる。

②  $0.6 \times 7 + 0.5 (= 4.7)$

5 ① 2 あまり 0.5 ② 3 あまり 2.2

③ 86 あまり 6.2

1 わる数 < 1 のとき、商 > わられる数

2 ① 
$$\begin{array}{r} 78 \\ 0.2 \overline{) 15.6} \\ \underline{14} \\ 16 \\ \underline{16} \\ 0 \end{array}$$
 ② 
$$\begin{array}{r} 5.35 \\ 0.8 \overline{) 4.28} \\ \underline{40} \\ 28 \\ \underline{24} \\ 40 \\ \underline{40} \\ 0 \end{array}$$

③ 
$$\begin{array}{r} 22.5 \\ 0.4 \overline{) 9.0} \\ \underline{8} \\ 10 \\ \underline{8} \\ 20 \\ \underline{20} \\ 0 \end{array}$$

3  $4.8 \div 2.3 = 2.08 \dots$

4 ① 全体(4.7Lのお茶)をいくつかずつ(0.6Lずつ)に分ける場合、いくつかずつにあたる数が小数でも、わり算の式をたてることができます。

② わる数  $\times$  商 + あまり を計算して、結果がわられる数になるかを調べます。

5 ① 
$$\begin{array}{r} 2 \\ 4.3 \overline{) 9.1} \\ \underline{86} \\ 5 \end{array}$$
 ② 
$$\begin{array}{r} 3 \\ 6.2 \overline{) 20.8} \\ \underline{186} \\ 22 \end{array}$$

あまりの小数点の位置

③ 
$$\begin{array}{r} 86 \\ 8.3 \overline{) 720.0} \\ \underline{664} \\ 560 \\ \underline{498} \\ 62 \end{array}$$

1 ①、⑤

2 ① 8      ② 0.48      ③ 7.25  
④ 9.5      ⑤ 0.25      ⑥ 7.5

3 ① 4.2      ② 2.5      ③ 3.1

4 ① 1あまり2.5      ② 5あまり4.2  
③ 31あまり0.3

5 式  $68.6 \div 3.5 = 19.6$       答え 19.6 g

6 ① 式  $5.4 \div 1.2 = 4.5$       答え 4.5 kg  
② 式 (例)  $1.2 \text{ m} = 120 \text{ cm}$   
 $120 \div 5.4 = 22.2\text{...}$   
答え 約 22 cm

7 式  $19.6 \div 3.2 = 6$  あまり 0.4  
答え 6本とれて、0.4 m あまる。

8 最も大きくなるもの…⑤  
最も小さくなるもの…①

1 わる数 < 1 のとき、商 > わられる数

2 ⑤ 
$$\begin{array}{r} 0.25 \\ 9.6 \overline{) 2.40} \\ \underline{192} \\ 480 \\ \underline{480} \\ 0 \end{array}$$
      ⑥ 
$$\begin{array}{r} 7.5 \\ 2.4 \overline{) 18.0} \\ \underline{168} \\ 120 \\ \underline{120} \\ 0 \end{array}$$

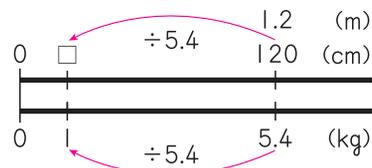
3 ② 
$$\begin{array}{r} 2.5\cancel{4} \\ 1.7 \overline{) 4.3.3} \\ \underline{34} \\ 93 \\ \underline{85} \\ 80 \\ \underline{68} \\ 12 \end{array}$$
      ③ 
$$\begin{array}{r} 3.0\cancel{9} \\ 9.4 \overline{) 29.1} \\ \underline{282} \\ 900 \\ \underline{846} \\ 54 \end{array}$$

4 あまりの小数点は、わられる数のもとの小数点にそろえてうちます。

② 
$$\begin{array}{r} 5 \\ 4.6 \overline{) 27.2} \\ \underline{230} \\ 42 \end{array}$$
      ③ 
$$\begin{array}{r} 31 \\ 8.7 \overline{) 270.0} \\ \underline{261} \\ 90 \\ \underline{87} \\ 03 \end{array}$$



② この鉄のぼう 1 kg の長さを □ cm として、 $1.2 \text{ m} = 120 \text{ cm}$  から求めます。



また、この鉄のぼう 1 kg の長さを □ m として求めて、最後に cm になおしてもよいです。  
 $1.2 \div 5.4 = 0.222\text{...}$   
 $0.22 \text{ m} = 22 \text{ cm}$

7 テープの本数は整数なので、商は一の位まで求めて、あまりも出します。

8 わる数が小さいほど、商は大きくなります。  
・わる数が最も小さい数 0.09 のとき、商は最も大きくなります。  
・わる数が最も大きい数 3.4 のとき、商は最も小さくなります。

# 小数の倍

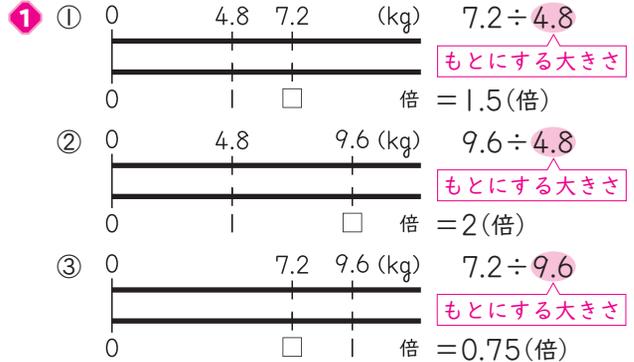
## びったり1 準備 28 ページ

- 1 (1) 12、1.25、1.25 (2) 12、15、0.8、0.8  
 2 ① 2 ② 8 ③ 1.8 ④ 4 ⑤ 1.8 ⑥ 7.2 ⑦ 1 ⑧ 0.7  
 ⑨ 0.7 ⑩ 2.8

## びったり2 練習 29 ページ

アビキ

- 1 ① 1.5 倍 ② 2 倍 ③ 0.75 倍



- 2 ① 0.4 倍 ② 2.5 倍

- 2 ①  $0.6 \div 1.5 = 0.4$  (倍)  
 ②  $1.5 \div 0.6 = 2.5$  (倍)

- 3 ① 6 m ② 7.2 m ③ 2.1 m

- 3  $A$  のロープの長さ 3 m をもとにする大きさとして考えます。  
 ①  $3 \times 2 = 6$  (m)  
 ②  $3 \times 2.4 = 7.2$  (m)  
 ③  $3 \times 0.7 = 2.1$  (m)

- 4 24.7 m

- 4 マンションの高さをもとにする大きさとしします。マンションの高さを 1 とみたとき、ビルの高さは、1.3 にあたる高さなので、 $19 \times 1.3 = 24.7$  (m)

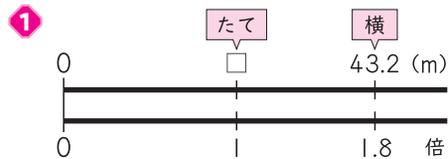
## びったり1 準備 30 ページ

- 1 ① 0.4 ② 240 ③ 240 ④ 0.4 ⑤ 600 ⑥ 600  
 2 ① 250 ② 0.8 ③ 450 ④ 500 ⑤ 0.9 ⑥ クッキー ⑦ クッキー

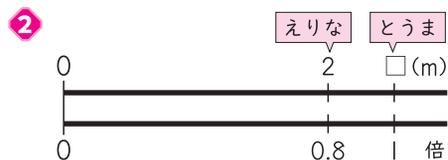
## びったり2 練習 31 ページ

アビキ

- 1 式 (例) たての長さを  $\square$  m とすると、  
 $\square \times 1.8 = 43.2$   
 $\square = 43.2 \div 1.8$   
 $= 24$  答え 24 m

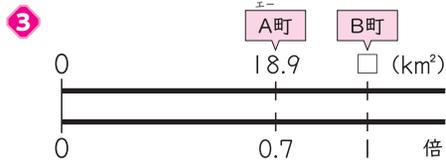


- 2 式 (例) とうまさんの使ったリボンの長さを  $\square$  m とすると、  
 $\square \times 0.8 = 2$   
 $\square = 2 \div 0.8$   
 $= 2.5$  答え 2.5 m



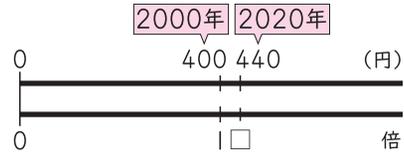
3 式 (例) B町の面積を  $\square$   $\text{km}^2$  とすると、  
 $\square \times 0.7 = 18.9$   
 $\square = 18.9 \div 0.7$   
 $= 27$  答え  $27 \text{ km}^2$

4 1.1、120、80、1.5、かんジュース



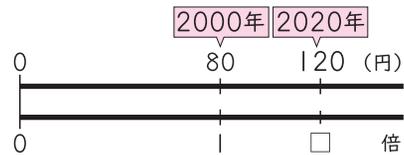
4 2000年のねだんを、もとにする大きさとしてします。2000年のねだんを1とみたとき、2020年のねだんにあたる数が大きいほうが、ねだんの上がり方が大きいといえます。

・まんがの本



$440 \div 400 = 1.1$ (倍)

・かんジュース



$120 \div 80 = 1.5$ (倍)

よって、かんジュースのほうが、ねだんの上がり方が大きいといえます。

🔁 10分5分レッスン まちがえた問題をもう1回やってみよう。

びんご 3 確かめのテスト

32~33 ページ

アビキ

1 ① 式  $2.4 \div 1.5 = 1.6$  答え 1.6 倍  
 ② 式  $0.6 \div 1.5 = 0.4$  答え 0.4 倍

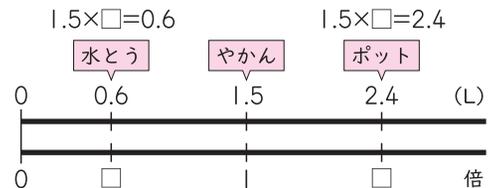
2 5 倍 22.5 kg  
 2.9 倍 13.05 kg  
 0.4 倍 1.8 kg

3 ① 4.8 dL ② 3.2 dL

4 ア 12 ① 1 ウ 3.6  
 式  $12 \times 3.6 = 43.2$  答え  $43.2 \text{ km}^2$

5 ア 8.4 ① 0.3 ウ 1  
 式 (例) 大きい犬の体重を  $\square$  kg とすると、  
 $\square \times 0.3 = 8.4$   
 $\square = 8.4 \div 0.3$   
 $= 28$  答え  $28 \text{ kg}$

1 やかんに入る水の量が、もとにする大きさです。



2 もとにする大きさは4.5 kgです。

5 倍  $4.5 \times 5 = 22.5$ (kg)

2.9 倍  $4.5 \times 2.9 = 13.05$ (kg)

0.4 倍  $4.5 \times 0.4 = 1.8$ (kg)

3 もとにする大きさは4 dLです。

①  $4 \times 1.2 = 4.8$ (dL)

②  $4 \times 0.8 = 3.2$ (dL)

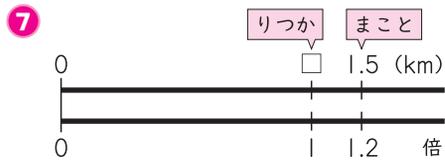
5 大きい犬の体重がもとにする大きさになるので、図の  $\square$  kg を1とみます。

6 ア 7.5 イ 0.6 ウ 1  
 式 (例) 1Lのガソリンで□km走れるとすると、  
 $\square \times 0.6 = 7.5$   
 $\square = 7.5 \div 0.6$   
 $= 12.5$  答え 12.5 km

7 式 (例)  $\square \times 1.2 = 1.5$   
 $\square = 1.5 \div 1.2$   
 $= 1.25$  答え 1.25 km

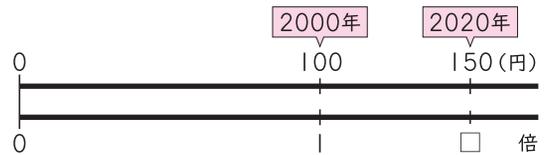
8 ゼリー

6 1Lのガソリンで走れる道のりを求めるので、図の□kmを1Lとします。



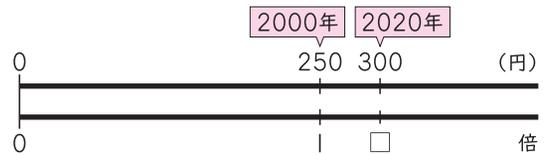
8 2000年のねだんを、もとにする大きさとして。2000年のねだんを1とみたとき、2020年のねだんにあたる数が大きいほうが、ねだんの上がり方が大きいといえます。

・ゼリー



$150 \div 100 = 1.5(\text{倍})$

・マフィン



$300 \div 250 = 1.2(\text{倍})$

よって、ゼリーのほうが、ねだんの上がり方が大きいといえます。

**おうちのみなへ** 2つの大きさを比べる場合に、ある大きさがもとにする大きさの何倍になっているかという、倍の考えを使います。ここでは、ある大きさやもとにする大きさが小数であっても、倍を表す数が小数であっても、整数と同じように比べることができることを学習しています。そのとき、どれを1とみるか(もとにする大きさ)を正確にとらえて問題を解くことが大切です。

6は倍の問題ではありませんが、1あたりの量をとらえる意味で入れてあります。倍の問題と数直線の図を見比べて考えさせましょう。

## 6 合同な図形

ぴったり1 準備 34 ページ

- 1 ア、イ  
 2 H、F、G (1) EF、G (2) 1.8、75  
 3 合同

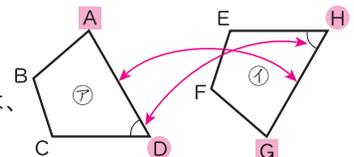
ぴったり2 練習 35 ページ

てびき

- 1 ①(と)㊦  
 2 ① 辺CD…辺EH 角A…角G  
 ② 辺EF…1.5 cm 角H…60°  
 3 1本の対角線をひいてできる2つの三角形 (×)、○、○、(○)、○  
 2本の対角線をひいてできる4つの三角形 ×、×、○、×、○

1 ㊦と㊧は、形(正三角形)は同じですが、大きさがちがいます。

- 2 いちばん長い辺は、辺ADと辺GH、いちばん小さい角は、角Dと角Hだから、対応する頂点は、AとG、BとF、CとE、DとHです。



**しあげの5分レッスン** 合同な図形の対応する辺と対応する角を確かめよう。

びっぴり1 準備

36 ページ

1 (例) BC、AC、C

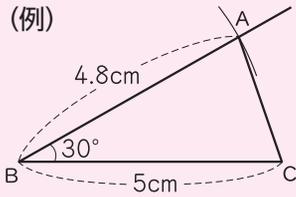
2 ① BCD ② 3 ③ AD ④ 2 ⑤ ABD

びっぴり2 練習

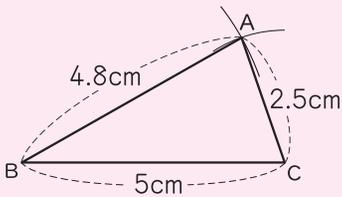
37 ページ

てびき

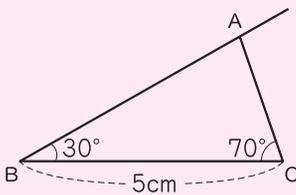
1 ① (例)



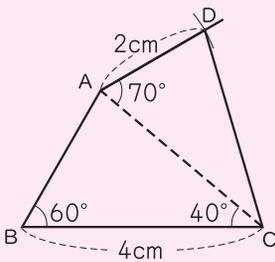
②



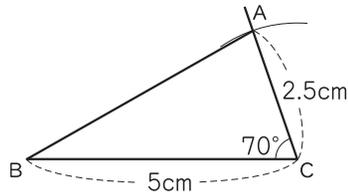
③



2



1 ① 辺BCと辺ACの長さ、その間の角の大きさを使ってかく方法もあります。



③ 角Bと角Cは、どちらを先にかいてもよいです。

2 まず、三角形ABCをかきます。次に、角Aの大きさが70°、辺ADの長さが2cmになるように、三角形ACDをかきます。

**しあげの5分レッスン** かけなかった図形をもう1回かいてみよう。

びっぴり3 確かめのテスト

38~39 ページ

てびき

1 ㊦、㊧

2 ① 辺GF

② 角H

③ 4.5 cm

④ 100°

3 ① 三角形CBD

② 3個

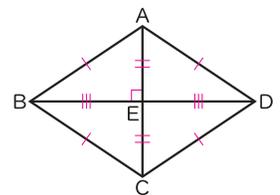
1 直角の角をつくる辺の長さが、それぞれ等しい三角形を見つけます。

2 いちばん小さい角は、角Aと角E、90°の角は、角Dと角Fだから、頂点A、B、C、Dに対応する頂点は順に、頂点E、H、G、Fとなります。

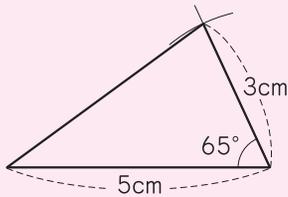
3 ① 三角形ABDをうら返すと、三角形CBDと重なります。

② 三角形ABEと合

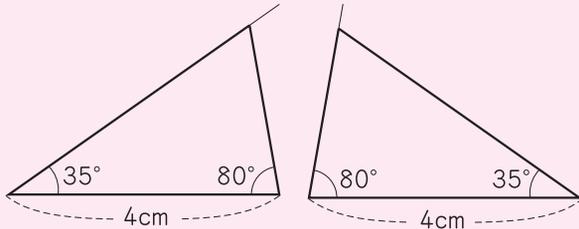
同な三角形は、三角形CBE、三角形CDE、三角形ADEです。



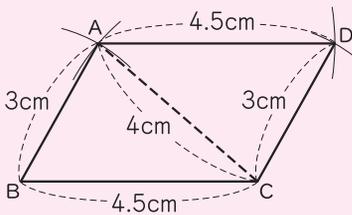
4 ① (例)



② (例)



5



6 ① 辺AB

② 角C

7 ① ×

② ×

③ ○

5 まず、三角形ABCをかきます。

次に、辺ADの長さが4.5cm、辺CDの長さが3cmになるように、三角形ACDをかきます。

6

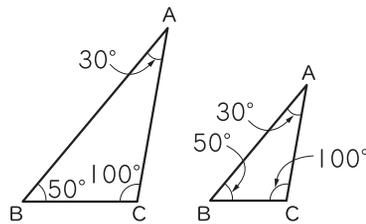
✌️ 合同な三角形をかくには、次の辺の長さや角の大きさがわかればいね。

- ・ 2つの辺とその間の角
- ・ 1つの辺とその両はしの2つの角
- ・ 3つの辺

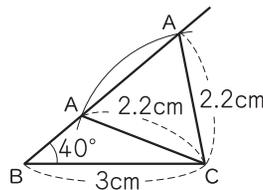
① 角Bが、辺BCともう1つの辺の間の角になればよいです。

② 辺BCの両はしの2つの角の大きさがわかればよいです。

7 ① 大きさがちがう三角形になることがあります。



② 頂点Aが2つできてしまいます。



③ 辺ABと辺ACの長さが等しい二等辺三角形だから、角Bと角Cの大きさは等しくなります。

## 7 図形の角

びっぴり1 準備 40 ページ

1 (1) 180、40、65、65

(2) ① 180 ② 15 ③ 45 ④ 120 ⑤ 120 ⑥ 60 ⑦ 60  
(②45 ③15でもよい。)

2 360、90、115、115

3 3、3、540、540

びっぴり2 練習 41 ページ

てびき

1 ① 45° ② 20° ③ 40° ④ 80°

- 1 ①  $180 - (65 + 70) = 45$   
 ②  $180 - (25 + 135) = 20$   
 ③ 二等辺三角形の2つの角の大きさは等しいので、  
 $(180 - 100) \div 2 = 40$   
 ④ ㊦となりの角度は、  
 $180 - (55 + 25) = 100$   
 ㊦の角度は、 $180 - 100 = 80$

2 ①  $125^\circ$  ②  $100^\circ$

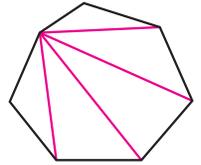
3 ① 七角形 ②  $900^\circ$

4 ① ① ② ②

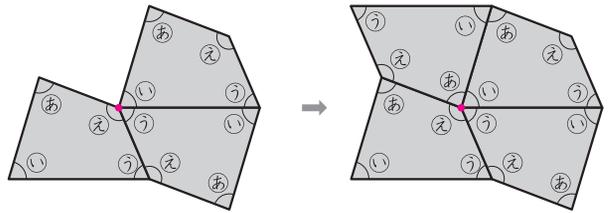
2 ①  $360 - (70 + 100 + 65) = 125$

② ①のとなりの角度は、  
 $360 - (120 + 60 + 100) = 80$   
 ①の角度は、 $180 - 80 = 100$

3 ② 1つの頂点から対角線<sup>ちうかくせん</sup>を  
 ひくと、5つの三角形に分  
 けられます。  
 7つの角の大きさの和は、  
 $180 \times 5 = 900$



4 四角形の4つの角の大きさの和が $360^\circ$ であるこ  
 とを使います。②の頂点(・印)に、四角形の角がす  
 べて集まるように、同じ長さの辺をつけてならべて  
 いくと、下の図のようになります。



・印のまわりに、あ、い、う、えの4つの角が集ま  
 るので、・印のまわりの角は、 $360^\circ$ になり、すき  
 まなくしきつめられます。

ひっかけ問題 確かめのテスト

42~43 ページ

てびき

1  $180^\circ$

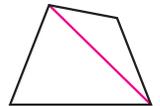
2 ① 2つ  
 ②  $360^\circ$

3 ① 多角形  
 ②ア 3 ① 4 ウ 5  
 ③ 540° ④ 720° ⑤ 900°

4 ① 式  $180 - (35 + 110) = 35$  答え  $35^\circ$   
 ② 式  $180 - (60 + 75) = 45$   
 $180 - 45 = 135$  答え  $135^\circ$

1 3つの角を1つの点に集めると、一直線になるので、  
 3つの角の大きさの和は $180^\circ$ です。

2 ① 1つの頂点から、対角線が  
 1本ひけて、2つの三角形に  
 分けられます。



② 4つの角の大きさの和は、三角形が2つ分の  
 角の大きさの和になるから、 $180 \times 2 = 360$

3 ②   
 五角形 六角形 七角形

③ ⑤ 五角形は、3つの三角形に分けられるから、  
 5つの角の大きさの和は、 $180 \times 3 = 540$   
 ⑥ 六角形は、4つの三角形に分けられるから、  
 6つの角の大きさの和は、 $180 \times 4 = 720$   
 ⑦ 七角形は、5つの三角形に分けられるから、  
 7つの角の大きさの和は、 $180 \times 5 = 900$

4  三角形の3つの角の大きさの和は $180^\circ$ で  
 あることを使うよ。

② まず、①のとなりの角度を求めます。

5 ① 式  $360 - (85 + 70 + 60) = 145$   
 答え  $145^\circ$

② 式  $360 - (65 + 90 + 85) = 120$   
 $180 - 120 = 60$  答え  $60^\circ$

6 式 (例)  $180 - 45 = 135$  答え  $135^\circ$

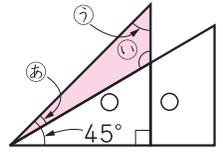
7 式 (例)  $(360 - 60 \times 2) \div 2 = 120$   
 $120 - 60 = 60$  答え  $60^\circ$

- 8 ①ア 180 ① 4 ウ 720  
 ②ア 180 ① 6 ウ 360  
 ③ア 720 ① 720

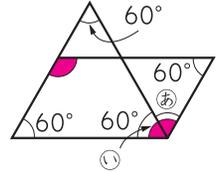
5 ✂ 四角形の4つの角の大きさの和は  $360^\circ$  であることを使うよ。

② まず、①のとなりの角度を求めます。

6 直角二等辺三角形の①の角の大きさは  $45^\circ$  です。  
 色をつけた三角形の3つの角の和は  $180^\circ$  だから、  
 ②+① =  $180 - 45 = 135$



7 平行四辺形の向かい合った角の大きさは等しいから、  
 ①の角度は、  
 $(360 - 60 \times 2) \div 2 = 120$



- 8 ① 多角形の角の大きさの和は、1つの頂点からひいた対角線で三角形に分ければ、 $180^\circ \times$  (分けた三角形の数) で求めることができます。  
 ② 多角形の中に1点を取り、そこから頂点に直線をかき加えてできた三角形の数をもとに、  
 $180^\circ \times$  (できた三角形の数)  $- 360^\circ$  で求めることもできます。

**おうちのカタへ** 三角形の3つの角の大きさの和は  $180^\circ$  であることを使うと、多角形の内角の大きさの和を求めることができます。多角形をどのように三角形に分けていけば求めることができるか家庭でもしっかり指導しておくことが深い学びにつながっていきます。

**しげの5分レッスン** まちがえた問題をもう1回やってみよう。

## 8 偶数と奇数、倍数と約数

### ぴったり1 準備 44 ページ

- 1 2、2、1  
 ○で囲む数…0、2、4、6、8、10、12、14、16、18、20  
 □で囲む数…1、3、5、7、9、11、13、15、17、19
- 2 (1) 奇数、11、1 (2) 偶数、12  
 (3) 偶数、28 (4) 奇数、38、1

### ぴったり2 練習 45 ページ

てびき

- 1 偶数…0、12、26、98、100  
 奇数…5、39、43、71、87

1 ✂ 2でわりきれぬかどうかは、一の位の数字でわかるよ。  
 偶数 0、2、4、6、8  
 奇数 1、3、5、7、9

- 2 ① 3、偶数 ② 3、奇数  
 ③ 21、奇数 ④ 22、偶数
- 3 ① 132  
 ② 321

2 ②、③の式の+1は、2でわりきれないことを表しています。

3 ① 偶数なので、一の位の数字は2です。  
 大きい位の数字が小さいほうが、整数は小さくなるので、百の位の数字は1です。

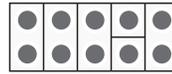
- 4 ① 偶数  
② 奇数  
③ 偶数

② 奇数なので、一の位の数字は1または3です。  
大きい位の数字が大きいほうが、整数は大きくなるので、百の位の数字は3です。

4 図に表すと、偶数は、だけで表されます。

奇数は、2でわったときのあまり1()があります。  
2つの数の図を合わせたときに、が残るかどう  
かで考えます。

③ 2つの奇数の図を合わせると、



となり、あまりのは残らない  
ので、偶数になります。

びっぴり1 準備 46 ページ

- 1 ① 5 ② 10 ③ 15 ④ 20 ⑤ 25  
2 ① 20 ② 20 ③ × ④ × ⑤ × ⑥ × ⑦ ○ ⑧ ×  
⑨ ○ ⑩ × ⑪ ○ ⑫ 10 ⑬ 20 ⑭ 30 ⑮ 10  
3 ① × ② ○ ③ × ④ ×  
⑤ × ⑥ ○ ⑦ × ⑧ ○ ⑨ 20

びっぴり2 練習 47 ページ

てびき

- 1 9、27、63、108  
2 2の倍数…2、4、6、8、10、12、14  
3の倍数…3、6、9、12、15  
2と3の公倍数…6、12  
3 ① 6、12、18、24、30  
② 14、28、42、56、70  
③ 20、40、60、80、100  
④ 45、90、135、180、225  
4 ① 36 ② 8  
5 ① 60分後  
② 8時20分

1 9の倍数は、9に整数をかけてできる数です。

2  2の倍数は、2でわりきれぬ数だから、偶数だね。0は倍数に入れないよ。

3  公倍数は、最小公倍数の倍数になっているよ。

① 6の倍数 6、12、18、…  
3の倍数かどうか ○ ○ ○ …

 6は3の倍数だから、6の倍数は、3と6の公倍数になっているね。

④ 15の倍数 15、30、45、…  
9の倍数かどうか × × ○ …  
9と15の公倍数は、最小公倍数45の倍数になります。

4 ① 12の倍数 12、24、36、…  
9の倍数かどうか × × ○ …  
4の倍数かどうか ○ ○ ○ …

5 ① 6と15と20の最小公倍数を考えます。

 **しあげの5分レッスン** 3、4について、まちがえた問題を、倍数を書き出してもう1回やってみよう。

びっぴり1 準備 48 ページ

- 1 5、15  
2 ① 3 ② 6 ③ 9 ④ 3 ⑤ 4 ⑥ 6 ⑦ 8 ⑧ 12  
⑨ 3 ⑩ 6 ⑪ 9 ⑫ ○ ⑬ ○ ⑭ × ⑮ 3 ⑯ 6 ⑰ 6  
3 ① ○ ② ○ ③ × ④ ○ ⑤ ○ ⑥ × ⑦ 4

- 1 ① 1、2、4  
② 1、3、7、21
- 2 10の約数…1、2、5、10  
16の約数…1、2、4、8、16  
10と16の公約数…1、2
- 3 ① 公約数…1、3  
最大公約数…3  
② 公約数…1、2、4  
最大公約数…4
- 4 4
- 5 ① 6  
② 8
- 6 1 cm のとき 63 本、3 cm のとき 21 本、  
9 cm のとき 7 本

- 3  公約数は、最大公約数の約数になっているよ。  
② 20の約数 1、2、4、5、10、20  
32の約数かどうか ○ ○ ○ × × ×
  - 4 12の約数 1、2、3、4、6、12  
16の約数かどうか ○ ○ × ○ × ×  
24の約数かどうか ○ ○ ○ ○ ○ ○
  - 5 ② 8の約数 1、2、4、8  
24の約数かどうか ○ ○ ○ ○  
40の約数かどうか ○ ○ ○ ○
-  8は24と40の約数だから、8の約数は、8と24と40の公約数になっているよ。
- 6 1本分の長さを表す数は、27と36の公約数  
1、3、9になります。

- 1 偶数…38、74、96  
奇数…19、27、43、51
- 2 ① 公倍数…40、80  
最小公倍数…40  
② 公倍数…60、120  
最小公倍数…60
- 3 ① 公約数…1、5  
最大公約数…5  
② 公約数…1、2、4、8  
最大公約数…8
- 4  $\frac{1}{4}$ 個を8列、2個を4列、  
4個を2列、8個を1列
- 5 ① 60 cm  
② 30 まい
- 6 ① 8 cm  
② 30 まい
- 7 ① 14 人  
② みかんの個数…2 個  
バナナの本数…3 本

- 1  偶数は2でわりきれぬ整数、奇数は2でわりきれぬ整数だったね。
- 2  公倍数は、いちばん大きい数の倍数を求めて  
見つけるといいよ。  
② 15の倍数 15、30、45、60、…  
6の倍数かどうか × ○ × ○ …  
4の倍数かどうか × × × ○ …  
公倍数は、最小公倍数60の倍数になります。
- 3  公約数は、いちばん小さい数の約数を求めて  
見つけるといいよ。  
② 16の約数 1、2、4、8、16  
32の約数かどうか ○ ○ ○ ○ ○  
40の約数かどうか ○ ○ ○ ○ ×
- 4 1列にならべるご石の個数と列の数の積は8です。  
1列にならべるご石の個数と列の数は、どちらも8  
の約数になります。
- 5 ① 正方形の1辺の長さを表す数は、10と12の  
最小公倍数になります。  
② 長方形の紙は、たてに  $60 \div 10 = 6$ (まい)、  
横に  $60 \div 12 = 5$ (まい)ならびます。
- 6 ① 正方形の色板の1辺の長さを表す数は、  
40と48の最大公約数になります。  
② 色板は、たてに  $40 \div 8 = 5$ (まい)、  
横に  $48 \div 8 = 6$ (まい)ならびます。
- 7 ① 分ける人数を表す数は、28と42の最大公約  
数になります。  
② 1人分のみかんの個数は、 $28 \div 14 = 2$ (個)  
バナナの本数は、 $42 \div 14 = 3$ (本)です。

8 9時5分

8 8と10の最小公倍数は40なので、40分後に同時に発車することがわかります。

8時25分の40分後は9時5分です。

🎯 **しあいの5分レッスン** まちがえた問題をもう1回やってみよう。

## 9 分数と小数、整数の関係

### びっぴり1 準備 52 ページ

1 (1)① 3 ② 3 ③ 5 (2)④ 5 ⑤ 5 ⑥ 3

2 (1) 5、6、 $\frac{5}{6}$  (2) 6、 $\frac{7}{6}$

### びっぴり2 練習 53 ページ

てびき

1 ①  $\frac{2}{9}$  ②  $\frac{6}{13}$  ③  $\frac{7}{4}$

④  $\frac{8}{3}$  ⑤  $\frac{13}{9}$  ⑥  $\frac{11}{15}$

2 ① 2 ② 2 ③ 4 ④ 9

3 ①  $\frac{7}{3}$ 倍 ( $2\frac{1}{3}$ 倍)

②  $\frac{15}{8}$ 倍 ( $1\frac{7}{8}$ 倍)

③  $\frac{9}{4}$  ( $2\frac{1}{4}$ ) ④  $\frac{4}{9}$

4 ①  $\frac{17}{12}$ 倍 ( $1\frac{5}{12}$ 倍) ②  $\frac{12}{17}$ 倍

1 2

  $\square \div \bigcirc = \frac{\square}{\bigcirc}$  だったね。

3 ①  $7 \div 3 = \frac{7}{3}$  (倍)

②  $15 \div 8 = \frac{15}{8}$  (倍)

③  $9 \div 4 = \frac{9}{4}$

④  $4 \div 9 = \frac{4}{9}$

4 ① 牛にゆうのかさが、もとにする大きさだから、

$$17 \div 12 = \frac{17}{12} \text{ (倍)}$$

② ジュースのかさが、もとにする大きさだから、

$$12 \div 17 = \frac{12}{17} \text{ (倍)}$$

### びっぴり1 準備 54 ページ

1 (1)① 2 ② 5 ③ 0.4

(2)④  $\frac{1}{4}$  ⑤ 1 ⑥ 4 ⑦ 0.25 ⑧ 1.25 ⑨ 5 ⑩ 5 ⑪ 4 ⑫ 1.25

2 (1)① 10 ② 7 ③ 10 (2)④ 100 ⑤ 123 ⑥ 100

3 1、 $\frac{9}{1}$

### びっぴり2 練習 55 ページ

てびき

1 ① 0.2 ② 3.5 ③ 3.75

④ 2 ⑤ 1.8 ⑥ 2.125

2 ① > ② > ③ <

3 ① (例)  $\frac{4}{10}$  ② (例)  $\frac{7}{100}$  ③ (例)  $\frac{26}{100}$

④ (例)  $\frac{19}{10}$  ⑤ (例)  $\frac{148}{100}$  ⑥ (例)  $\frac{501}{100}$

1 分子÷分母の商を計算します。

2 分数を小数で表して、大小を比べます。

①  $\frac{1}{4} = 1 \div 4 = 0.25$  だから、 $0.25 > 0.2$

②  $\frac{7}{5} = 7 \div 5 = 1.4$  だから、 $1.6 > 1.4$

③  $2\frac{1}{2} = 2 + \frac{1}{2}$   $\frac{1}{2} = 1 \div 2 = 0.5$

$2\frac{1}{2} = 2.5$  だから、 $2.4 < 2.5$

- 4 ①ア 1      ① 2      ウ 1  
 ②ア 8      ① 8      ウ 1  
 ③ア 14      ① 14      ウ 1

3 ⑥  $0.01 = \frac{1}{100}$  の501こ分だから、 $\frac{501}{100}$

4 ■ = ■ ÷ | の式で表すと、整数は | を分母とする分数で表すことができます。

ぴったし3 確かめのテスト

56~57 ページ

アビキ

1 ①  $\frac{7}{3}$       ②  $\frac{15}{4}$

③  $\frac{5}{13}$       ④  $\frac{18}{25}$

2 ① 17      ② 16

3 ① 7、9、 $\frac{7}{9}$   
 ② 20、9、 $\frac{20}{9}$  ( $2\frac{2}{9}$ )

4 ① 1.375      ② 5      ③ 2.6

5 ① (例)  $\frac{8}{10}$       ② (例)  $\frac{132}{100}$       ③ (例)  $\frac{6}{1}$

6 ① <      ② =      ③ >

7 1、5、 $2 \div 5$ 、 $\frac{2}{5}$ 、正しくない

8 ① 式  $8 \div 25 = \frac{8}{25}$       答え  $\frac{8}{25}$  倍

② 0.32 倍

1 2 ✂ わる数が分母、わられる数が分子になるね。

■ ÷ ● =  $\frac{■}{●}$

3 もとにする大きさは、白のテープの長さ 9 m です。

① 9 m を | とみたとき、青のテープの長さ 7 m がいくつにあたるかを求める式は、 $7 \div 9$

② 9 m を | とみたとき、赤のテープの長さ 20 m がいくつにあたるかを求める式は、 $20 \div 9$

4 分子 ÷ 分母の商を計算します。

①  $\frac{11}{8} = 11 \div 8 = 1.375$

②  $\frac{35}{7} = 35 \div 7 = 5$

③  $2\frac{3}{5} = 2 + \frac{3}{5}$

$\frac{3}{5} = 3 \div 5 = 0.6$  だから、 $2\frac{3}{5} = 2.6$

または、 $2\frac{3}{5} = \frac{13}{5} = 13 \div 5 = 2.6$

5 ③  $6 = 6 \div 1 = \frac{6}{1}$

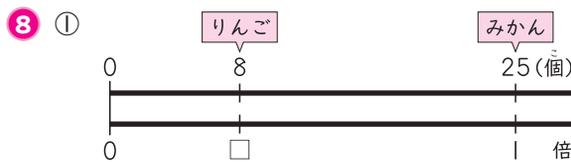
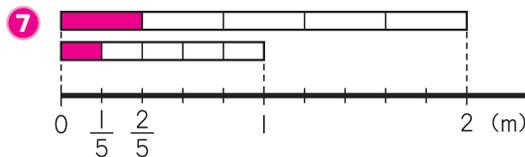
6 分数を小数で表して、大きさを比べます。

①  $\frac{8}{5} = 8 \div 5 = 1.6$  だから、 $1.6 < 1.7$

②  $1\frac{3}{4} = 1 + \frac{3}{4}$   $\frac{3}{4} = 3 \div 4 = 0.75$

$1\frac{3}{4} = 1.75$  だから、 $1.75 = 1.75$

③  $\frac{1}{8} = 1 \div 8 = 0.125$  だから、 $0.125 > 0.12$



②  $\frac{8}{25} = 8 \div 25 = 0.32$



# 考える力をのばそう

## 差や和に注目して

58~59 ページ

てびき



①

	昨日 まで	1日め (今日)	2日め	3日め	4日め	5日め	6日め
とうま(ページ数)	42	45	48	51	54	57	60
ひまり(ページ数)	0	6	12	18	24	30	36
差(ページ数)	42	39	36	33	30	27	24

② 3 ページ

③ 3、3、14                      答え 14日め



②

	去年	1月	2月	3月	4月
ゆき(円)	3000	3250	3500	3750	4000
りき(円)	1500	1900	2300	2700	3100
差(円)	1500	1350	1200	1050	900

式  $3000 - 1500 = 1500$

$1500 \div (400 - 250) = 10$    答え 10月



①

	昨日 まで	1日め (今日)	2日	3日	4日
南側(m)	60	68	76	84	92
北側(m)	0	10	20	30	40
和(m)	60	78	96	114	132

② 18 m

③ 18、18、10                      答え 10日



④

	去年	1月	2月	3月	4月
はるか(円)	600	780	960	1140	1320
妹(円)	0	120	240	360	480
和(円)	600	900	1200	1500	1800

式  $3000 - 600 = 2400$

$2400 \div (180 + 120) = 8$    答え 8月



③

最初にあった差の42ページが0ページまでちぢまる日数は、最初の差を、1日でちぢまるページ数でわれば求められます。



②

最初の差は、 $3000 - 1500 = 1500$ (円)です。1か月で、 $400 - 250 = 150$ (円)ずつちぢまるから、差が0円になるまでの月数は、 $1500 \div 150 = 10$ (か月)



③

北側を造り始めたとき、あと  $240 - 60 = 180$ (m) 造れば、南側と北側がつながります。南側と北側がつながるのにかかる日数は、この長さを、1日ごとに増える橋の長さでわれば求められます。



④

妹が貯金を始めたとき、ゲームソフトを買うのに必要な金額は、あと  $3000 - 600 = 2400$ (円)でした。1か月で、 $180 + 120 = 300$ (円)ずつ増えるから、和が2400円になるまでの月数は、 $2400 \div 300 = 8$ (か月)

## 活用

# 算数で読みとこう

## データにかくれた事実にせまろう

60~61 ページ

てびき



①

- ① 6379人
- ② (例)2020年のデータがないので、2021年に急に減少したかどうかはわからない。
- ③㊦ このデータからはわからない
- ① 正しくない



②

- ① 17人
- ② (上から順に)8、2、6、0、35
- ③ (例)平日の勉強時間が30分未満で、今より勉強時間を増やしたいと答えた人
- ④ (例)平日の勉強時間が1時間未満の人のうち、半数以上が今より勉強時間を増やしたいと答えている。



①

- ① 折れ線グラフの2021年の人数を見ます。
- ③㊦ 2020年のデータがないので毎年人口が減少しているかどうかはわかりません。
- ④ 西区の2017年の人口は1910人、2019年の人口は1549人で減少しています。



②

- ① データ2の㊦と㊧より、 $8 + 9 = 17$ (人)
- ③ 質問1で㊥、質問2で㊦と答えた人です。

# 10 分数のたし算とひき算

## びったり① 準備 62 ページ

- 1 ① 3 ② 2 ③ 1 ④ 6  
 2 (1)① 5 ② 5 ③ 20  
 (2)④ 2 ⑤ 2 ⑥ 9  
 3 ① 3 ② 4 ③ 3 ④ 4

## びったり② 練習 63 ページ

### てびき

- 1 ①ア 4 ① 1 ウ 5 ⑤ 6  
 ②ア 6 ① 8 ウ 7 ⑤ 8  
 ③ア 5 ① 2 ウ 8 ⑤ 3  
 ④ 8

- 2 ① 30、45 ② 3、40

- 3 ① (例)  $\frac{6}{10}$ 、 $\frac{9}{15}$   
 ② (例)  $\frac{3}{2}$ 、 $\frac{6}{4}$

- 4 ①  $\frac{2}{5}$  ②  $1\frac{3}{4}$  ( $\frac{7}{4}$ ) ③ 5

- 5 ア、ウ、エ

- 1 数直線を使って、計算する分数と大きさの等しい分数を調べ、分母が同じになるものを見つけます。

2 ②

$$\frac{12}{20} = \frac{\square}{5} = \frac{24}{\square}$$

- 3 ②  $\frac{9}{6} = \frac{3}{2}$  だから、 $\frac{3}{2}$  をもとにして、大きさの等しい分数を求めます。

4 ③  $\frac{60}{12} = \frac{5}{1}$

✋ 最大公約数が見つけれないときは、公約数でくり返しわっていこう。

$$\begin{array}{r} 5 \\ 3 \\ 2 \\ 2 \\ 1 \\ 2 \\ 1 \\ 1 \end{array}$$

- 5 約分すると、ア、ウ、エ  $\frac{5}{4}$  ①  $\frac{9}{8}$  ④  $\frac{7}{6}$

🎯 **しあげの5分レッスン** まちがえた問題をもう1回やってみよう。

## びったり① 準備 64 ページ

- 1 ① 6 ② 15 ③ 5 ④ 15 ⑤ 6 ⑥ 5  
 2 ① 6 ② 5 ③ 11 ④ 15  
 3 (1)① 2 ② 1 ③ 3 ④ 1  
 (2)⑤ 20 ⑥ 9 ⑦ 11  
 4 ① 9 ② 4 ③ 10 ④ 3 ⑤ 1 ⑥ 4

## びったり② 練習 65 ページ

### てびき

- 1 ① > ② < ③ =

- 1 ①  $\frac{7}{14} > \frac{6}{14}$  ②  $\frac{20}{45} < \frac{21}{45}$   
 ③  $1\frac{15}{36} = 1\frac{15}{36}$

2 ①  $\frac{7}{28}, \frac{20}{28}$   
 ②  $\frac{12}{16}, \frac{9}{16}$   
 ③  $\frac{12}{30}, \frac{35}{30}, \frac{9}{30}$

3 ①  $\frac{34}{35}$  ②  $\frac{3}{4}$  ③  $\frac{17}{12} (1\frac{5}{12})$   
 ④  $\frac{1}{12}$  ⑤  $\frac{1}{5}$  ⑥  $\frac{13}{18}$

4 ①  $\frac{29}{24} (1\frac{5}{24})$  ②  $\frac{19}{30}$  ③  $\frac{1}{9}$

5 式  $\frac{11}{12} - \frac{13}{15} = \frac{1}{20}$

答え 青のリボンが  $\frac{1}{20}$  m 長い。

2 ③ 3つの分母の最小公倍数を分母とします。

✂️ 最小公倍数は、次のように求めたね。  
 10の倍数 10、20、30、…  
 6の倍数かどうか × × ○ …  
 5の倍数かどうか ○ ○ ○ …

3 答えが約分できるときは、約分します。

⑤  $\frac{7}{10} - \frac{1}{2} = \frac{7}{10} - \frac{5}{10} = \frac{2}{10} = \frac{1}{5}$

4 ③  $\frac{11}{12} - \frac{5}{9} - \frac{1}{4}$   
 $= \frac{33}{36} - \frac{20}{36} - \frac{9}{36} = \frac{4}{36} = \frac{1}{9}$

5 まず、通分して大小を比べると、  
 $\frac{13}{15} = \frac{52}{60}$ 、 $\frac{11}{12} = \frac{55}{60}$  だから、 $\frac{13}{15} < \frac{11}{12}$

**おうちのかなへ** 分数のたし算やひき算では、分母が異なっても分母と分子をそれぞれ計算してしまう誤答がよく見られます。分母をそろえて計算しているか注意して見ていきましょう。いくつかの分数を通分するには、分母の公倍数を見つけてそれを分母とする分数になおせばよいことをしっかり教えておきましょう。

**びっぴり1 準備** 66 ページ

- 1 ① 15 ② 20 ③ 2 ④ 19 ⑤ 6 ⑥ 7 ⑦ 24 ⑧ 35 ⑨ 59  
 2 (1)① 5 ② 10 ③ 4 ④ 10 ⑤ 9 ⑥ 10  
 ⑦ 0.5 ⑧ 0.4 ⑨ 0.9  
 (2)⑩ 4 ⑪ 12 ⑫ 3 ⑬ 12 ⑭ 1 ⑮ 12

**びっぴり2 練習** 67 ページ

てびき

1 ①  $3\frac{9}{10} (3\frac{39}{10})$  ②  $4\frac{5}{8} (4\frac{37}{8})$   
 ③  $1\frac{5}{6} (1\frac{11}{6})$  ④  $2\frac{5}{28} (2\frac{61}{28})$   
 ⑤  $1\frac{7}{10} (1\frac{17}{10})$  ⑥  $1\frac{1}{4} (1\frac{5}{4})$

2 ①  $\frac{27}{20} (1\frac{7}{20}, 1.35)$  ②  $\frac{13}{20} (0.65)$   
 ③  $\frac{17}{20} (0.85)$  ④  $\frac{13}{20} (0.65)$   
 ⑤  $\frac{1}{8} (0.125)$  ⑥  $\frac{7}{10} (0.7)$

3 ①  $\frac{29}{35}$  ②  $\frac{43}{36} (1\frac{7}{36})$  ③  $\frac{2}{3}$

4 式  $1.5 + \frac{1}{3} = \frac{11}{6} (1\frac{5}{6})$  答え  $\frac{11}{6} (1\frac{5}{6})$  L

1 ✂️ 計算のしかたは 2通りあったね。

- ・帯分数のまま通分する。
- ・仮分数かぶんすうになおしてから通分する。

②  $3\frac{3}{8} + 1\frac{1}{4} = 3\frac{3}{8} + 1\frac{2}{8} = 4\frac{5}{8}$   
 $\cdot 3\frac{3}{8} + 1\frac{1}{4} = \frac{27}{8} + \frac{5}{4} = \frac{27}{8} + \frac{10}{8} = \frac{37}{8}$

⑥  $1\frac{11}{12} - \frac{2}{3} = 1\frac{11}{12} - \frac{8}{12} = 1\frac{3}{12} = 1\frac{1}{4}$   
 $\cdot 1\frac{11}{12} - \frac{2}{3} = \frac{23}{12} - \frac{2}{3} = \frac{23}{12} - \frac{8}{12} = \frac{15}{12} = \frac{5}{4}$

2 ✂️ 分数にそろえると、いつでも計算できるよ。

③  $\frac{7}{10} + 0.15 = \frac{7}{10} + \frac{3}{20} = \frac{14}{20} + \frac{3}{20} = \frac{17}{20}$

⑥  $1.2 - \frac{1}{2} = \frac{6}{5} - \frac{1}{2} = \frac{12}{10} - \frac{5}{10} = \frac{7}{10}$

3 ②  $0.75 + \frac{4}{9} = \frac{3}{4} + \frac{4}{9} = \frac{27}{36} + \frac{16}{36} = \frac{43}{36}$

4  $1.5 + \frac{1}{3} = \frac{3}{2} + \frac{1}{3} = \frac{9}{6} + \frac{2}{6} = \frac{11}{6}$

$1.5 + \frac{1}{3} = 1\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = 1\frac{3}{6} + \frac{2}{6} = 1\frac{5}{6}$

**あけの5分レッスン** まちがえた問題をもう1回やってみよう。

びっぴり1 準備

68 ページ

- 1 (1)① 5    ② 1    ③ 12    ④ 12    ⑤ 5    ⑥ 5    ⑦ 12  
 (2)⑧ 6    ⑨ 1    ⑩ 10    ⑪ 10    ⑫ 3    ⑬ 3    ⑭ 10

びっぴり2 練習

69 ページ

てびき

- 1 ①  $\frac{1}{6}$     ②  $\frac{1}{20}$     ③  $\frac{4}{15}$     ④  $\frac{11}{12}$   
 ⑤  $\frac{5}{4}(1\frac{1}{4})$     ⑥  $\frac{7}{3}(2\frac{1}{3})$   
 2 ①  $\frac{1}{5}$     ②  $\frac{1}{4}$     ③  $\frac{3}{20}$     ④  $\frac{7}{12}$   
 ⑤  $\frac{4}{3}(1\frac{1}{3})$     ⑥  $\frac{3}{2}(1\frac{1}{2})$   
 3 ①  $\frac{13}{30}$  時間  
 ② 図書館

- 1 | 時間を 60 等分した何こ分かで考えます。  
 ③ 60 等分した 16 こ分と考えて、 $\frac{16}{60}$  時間。  
 2 | 1 分を 60 等分した何こ分かで考えます。  
 ③ 60 等分した 9 こ分と考えて、 $\frac{9}{60}$  分。  
 3 ① | 時間を 60 等分した 26 こ分。

びっぴり3 確かめのテスト

70~71 ページ

てびき

- 1 ① 6、25  
 ② 9、24  
 2 ①  $\frac{5}{6}$     ②  $\frac{5}{2}$     ③  $1\frac{2}{5}(7/5)$   
 3 ① <    ② =    ③ >  
 4 ①  $\frac{18}{15}$ 、 $\frac{8}{15}$     ②  $\frac{6}{24}$ 、 $\frac{20}{24}$ 、 $\frac{9}{24}$   
 5 ①  $\frac{4}{5}$     ②  $\frac{7}{6}(1\frac{1}{6})$   
 6 ①  $\frac{9}{10}$     ②  $3\frac{9}{20}(69/20)$     ③  $4\frac{1}{6}(25/6)$   
 7 ①  $\frac{1}{3}$     ②  $\frac{17}{40}$     ③  $1\frac{13}{30}(43/30)$   
 8 ①  $\frac{11}{24}$     ②  $\frac{7}{36}$   
 9 ①  $\frac{11}{8}(1\frac{3}{8}$ 、1.375)    ②  $\frac{1}{45}$   
 10 式  $\frac{5}{18} + \frac{7}{12} = \frac{31}{36}$     答え  $\frac{31}{36}$  L  
 11 ア…5、イ…3  
 ア…7、イ…6

- 1 ②  $\frac{12}{27} = \frac{4}{9} = \frac{24}{54}$   
 3 通分して、分子の大小を比べます。  
 ①  $\frac{20}{36} < \frac{21}{36}$     ②  $2\frac{12}{18} = 2\frac{12}{18}$   
 ③  $1.8 = 1\frac{4}{5}$  だから、 $1\frac{25}{30} > 1\frac{24}{30}$   
 5 ① | 時間を 60 等分した 48 こ分。  
 6 ③  $\cdot 1\frac{1}{2} + 2\frac{2}{3} = 1\frac{3}{6} + 2\frac{4}{6} = 3\frac{7}{6} = 4\frac{1}{6}$   
 $\cdot 1\frac{1}{2} + 2\frac{2}{3} = \frac{3}{2} + \frac{8}{3} = \frac{9}{6} + \frac{16}{6} = \frac{25}{6}$   
 7 ③  $\cdot 2\frac{5}{6} - 1\frac{2}{5} = 2\frac{25}{30} - 1\frac{12}{30} = 1\frac{13}{30}$   
 $\cdot 2\frac{5}{6} - 1\frac{2}{5} = \frac{17}{6} - \frac{7}{5} = \frac{85}{30} - \frac{42}{30} = \frac{43}{30}$   
 8 ②  $\frac{10}{9} - \frac{3}{4} - \frac{1}{6} = \frac{40}{36} - \frac{27}{36} - \frac{6}{36} = \frac{7}{36}$   
 9 小数を分数で表して計算します。  
 ①  $\frac{5}{8} + 0.75 = \frac{5}{8} + \frac{3}{4} = \frac{5}{8} + \frac{6}{8} = \frac{11}{8}$   
 11  $\frac{ア}{12} + \frac{1}{4} + \frac{1}{4} = 1$  だから、  
 $\frac{ア}{12} + \frac{1}{4} = 1 - \frac{1}{4} = \frac{3}{4} = \frac{9}{12}$   
 $\frac{ア}{12}$  は約分できない分数で  $\frac{9}{12}$  より小さいので、  
 アにあてはまる数は 1、5、7 です。

ア	1	5	7
イ	$\frac{8}{12} = \frac{2}{3}$ ×	$\frac{4}{12} = \frac{1}{3}$ ○	$\frac{2}{12} = \frac{1}{6}$ ○

# 11 平均

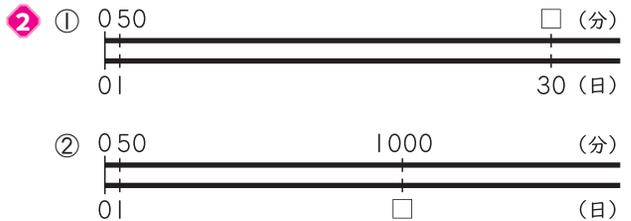
## びっぴり1 準備 72 ページ

- 1 ① 18 ② 26 ③ 13 ④ 5 ⑤ 19 ⑥ 19 (①~③の順番はちがってもよい。)
- 2 (1)① 125 ② 30 ③ 125 ④ 30 ⑤ 3750 ⑥ 3750  
 (2)⑦ 125 ⑧ 2000 ⑨ 125 ⑩ 2000 ⑪ 2000 ⑫ 125  
 ⑬ 16 ⑭ 16

## びっぴり2 練習 73 ページ

てびき

- 1 式  $(90+30+40+60+20+50+60) \div 7 = 50$  答え 50 分間
- 2 ① 式  $50 \times 30 = 1500$  答え 1500 分間  
 ② 式 (例)  $50 \times \square = 1000$   
 $\square = 1000 \div 50 = 20$  答え 20 日間
- 3 式  $(8+4+0+5+2) \div 5 = 3.8$  答え 3.8 人
- 4  $(24.16+24.14) \div 2 = 24.15$  答え 24.15 m



- 3 水曜日の 0 人もふくめます。

✂  $(8+4+5+2) \div 4$  としないこと。

- 4 ✂ 目的によっては、ほかと大きくちがう記録をのぞいて平均を求めることがあるよ。

失敗した 1 回めの記録をのぞいて平均を求めます。

## びっぴり3 確かめのテスト 74~75 ページ

てびき

- 1 ① 合計、個数  
 ② 式  $(280+360+320+290) \div 4 = 312.5$  答え 312.5 g
- 2 ① 式  $(15+20+12+16+24) \div 5 = 17.4$  答え 17.4 人  
 ② 式  $(0+16+10+10+12+5+10) \div 7 = 9$  答え 9 分間
- 3 ① 式  $0.4 \times 365 = 146$  答え 146 kg  
 ② 式 (例)  $0.4 \times \square = 10$   
 $\square = 10 \div 0.4 = 25$  答え 25 日間
- 4  $(20.3+19.8+21.2+20.7) \div 4 = 20.5$  答え 20.5 cm
- 5 ① 6.49 m  
 ② 約 0.65 m
- 6 ① 式  $17 \times 4 = 68$   
 $68 - (19+15+18) = 16$  答え 16 題以上
- ② 正しくない。  
 正しい式…  
 $(15+16+20+19+15+18+18) \div 7$

- 1 ✂ 平均 = 合計 ÷ 個数 だよ。

- 2 ② 0 分の日曜日もふくめます。

✂  $(16+10+10+12+5+10) \div 6$  としないこと。



- 5 ①  $(6.5+6.48+6.49) \div 3 = 6.49$ (m)  
 ② ①より 10 歩で歩いた長さの平均が 6.49 m なので、歩はばは、

$$6.49 \div 10 = 0.649 \text{ (m)}$$

- 6 ① 平均 = 合計 ÷ 個数より、まず 4 回の平均が 17 題のときの合計を求めます。  
 ② 先週と今週の回数がちがうので、正しくありません。

平均を求める式の「合計」は、先週と今週の 7 回の合計の題数で、「回数」は 7 回になります。

先週と今週の平均を使って、正しい式をつくることもできます。

$$(17 \times 3 + 17.5 \times 4) \div 7$$

先週の合計 今週の合計

## 12 単分量あたりの大きさ

### ぴったり1 準備 76 ページ

- 1 ① <sup>ビー</sup>B ② <sup>シー</sup>C ③ C ④ B ⑤ <sup>エー</sup>A  
 ⑥ 12 ⑦ 8 ⑧ 1.5 ⑨ 多い ⑩ C ⑪ C  
 ⑫ 8 ⑬ 12 ⑭ 0.66... ⑮ せまい ⑯ C ⑰ C

### ぴったり2 練習 77 ページ

てびき

- 1 ① 式 1組... $82 \div 8 = 10.25$   
 2組... $69 \div 6 = 11.5$   
 答え 1組...10.25個、2組...11.5個  
 ② 式 1組... $8 \div 82 = 0.0975\overset{8}{\dots}$   
 2組... $6 \div 69 = 0.0869\overset{7}{\dots}$   
 答え 1組...約0.098 m<sup>2</sup>、  
 2組...約0.087 m<sup>2</sup>  
 ③ 2組

- 2 ① 式 (例) 1 m<sup>2</sup>あたりの人数は、  
<sup>エー</sup>A... $18 \div 240 = 0.075$   
<sup>ビー</sup>B... $15 \div 180 = 0.0833\dots$   
 答え 公園B (のすな場)  
 ② 式  $0.075 \times 200 = 15$  答え 15人

- 1 ② わりきれないときは、<sup>ししごにち</sup>四捨五入して、上から2けたのがい数にします。  
 ③ ならした 1 m<sup>2</sup>あたりの球根の数で<sup>くら</sup>比べると、球根の数が多いい組のほうがこんでいます。ならした球根 1個あたりの面積で比べると、面積がせまい2組のほうがこんでいます。

✂ 1 m<sup>2</sup>あたりの数で比べると、こんでいるほど数が大きくなるから、わかりやすいよ。

- 2 ① ならした 1 m<sup>2</sup>あたりの人数が多いほうがこんでいます。  
 ならした 1人あたりの面積で比べると、  
 $A \dots 240 \div 18 = 13.3\dots$   
 $B \dots 180 \div 15 = 12$   
 1人あたりの面積がせまい公園Bのすな場のほうがこんでいます。  
 ② 公園Aのすな場には、1 m<sup>2</sup>あたり0.075人います。



**おうちのかたへ** こみぐあいは、ならした 1 m<sup>2</sup>あたりの人数と、1人あたりの面積で求める方法がありますが、ならした 1 m<sup>2</sup>あたりの人数で比べたほうが、こんでいるほど数が大きくなるので、わかりやすいでしょう。

**しあげの5分レッスン** まちがえた問題をもう1回やってみよう。

### ぴったり1 準備 78 ページ

- 1 ① 126650000 ② 378000 ③ 13840000 ④ 2194 ⑤ 340 ⑥ 6300  
 2 ① 130 ② 5 ③ 26 ④ 98 ⑤ 3 ⑥ 32.6... ⑦ B ⑧ B

① 式  $8840000 \div 1905 = 4640.4 \dots$   
 答え 約 4600 人

② ① 式  $A \dots 960 \div 400 = 2.4$   
 $B \dots 900 \div 360 = 2.5$   
 答え  $A \dots 2.4 \text{ kg}$ 、 $B \dots 2.5 \text{ kg}$

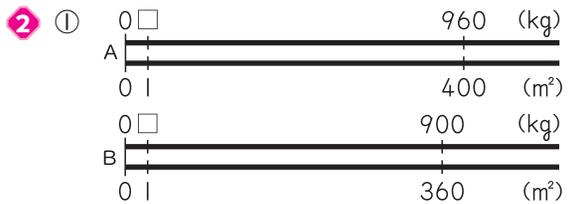
② Bの畑

③ 式  $A \dots 1460 \div 10 = 146$   
 $B \dots 480 \div 3 = 160$   
 答え ノート B

④ ① 式  $A \dots 384 \div 40 = 9.6$   
 $B \dots 230 \div 25 = 9.2$   
 答え Aの自動車

② 式  $9.6 \times \square = 168$   
 $\square = 168 \div 9.6$   
 $= 17.5$   
 答え 17.5 L

① じんこうみつど 人口密度は、ふつう  $1 \text{ km}^2$  あたりの人口だよ。



おうちのがたへ 数直線の図を使うと、面積ととれたさつまいもの重さや、ガソリンの量と走れる道のりの関係をわかりやすくとらえることができます。

- ① ① 100    ② 16    ③ 6.25    ④ 16    ⑤ 100    ⑥ 0.16    ⑦ B  
 ② ① 144    ② 2    ③ 72    ④ 72    ⑤ 72    ⑥ 60    ⑦ 1.2  
 ⑧ 1.2    ⑨ 1200    ⑩ 60    ⑪ 20    ⑫ 20

① ① Aさん...250 m、Bさん...330 m  
 ② Bさん

② ① 特急列車A...時速 180 km 分速 3 km  
 特急列車B...時速 174 km 分速 2.9 km  
 ② 特急列車A

③ ① 時速 59 km  
 ② 分速 180 m  
 ③ 秒速 12 m

④ 時速...時速 36 km  
 分速...分速 600 m (0.6 km)  
 秒速...秒速 10 m

① ② 1分間あたりに走った道のりが長いほうが速いです。

② ① 1時間あたりに進む道のり(時速)は、  
 特急列車A... $360 \div 2 = 180 \text{ (km)}$   
 特急列車B... $522 \div 3 = 174 \text{ (km)}$   
 1時間 = 60分だから、分速は  
 特急列車A... $180 \div 60 = 3 \text{ (km)}$   
 特急列車B... $174 \div 60 = 2.9 \text{ (km)}$

③ 速さ = 道のり ÷ 時間 で求めるよ。  
 単位時間によって速さは3種類だね。  
 | 時間あたりに進む道のりの時速  
 | 分間あたりに進む道のりの分速  
 | 秒間あたりに進む道のりの秒速

①  $118 \div 2 = 59 \text{ (km)}$

②  $3600 \div 20 = 180 \text{ (m)}$

③  $300 \div 25 = 12 \text{ (m)}$

④ 時速は、 $108 \div 3 = 36 \text{ (km)}$   
 $36 \text{ km} = 36000 \text{ m}$  だから、  
 分速は、 $36000 \div 60 = 600 \text{ (m)}$   
 または、 $36 \div 60 = 0.6 \text{ (km)}$   
 秒速は、 $600 \div 60 = 10 \text{ (m)}$

おうちのがたへ 速さを考える場合も、「こみぐあい」と同じように、単位量あたりの大きさで考えます。速さは単位時間あたりに進む道のりで表すことができ、単位時間のとりかたによって時速、分速、秒速があります。

びったり1 準備

82 ページ

1 ① 60 ② 4 ③ 240 ④ 240

2 ① 50 ② 800 ③ 800 ④ 50 ⑤ 16 ⑥ 16

びったり2 練習

83 ページ

てびき

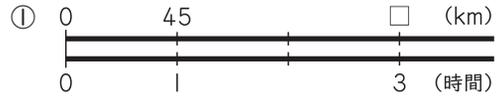
- 1 ① 135 km  
② 1050 m  
③ 810 m

2 6 km

- 3 ① 6 時間  
② 3 分  
③ 84 秒

4 40 分

1 ✂ 道のり = 速さ × 時間 で求めるよ。  
時間や道のりの単位は、速さで使っている  
単位にするんだよ。



$$45 \times 3 = 135 \text{ (km)}$$

②  $70 \times 15 = 1050 \text{ (m)}$

③  $18 \times 45 = 810 \text{ (m)}$

2  $750 \times 8 = 6000 \text{ (m)}$   
 $6000 \text{ m} = 6 \text{ km}$  だから 6 km になります。

3 ✂ かかる時間を□として、道のりを求める  
かけ算の式をつくらう。



$$65 \times \square = 390$$

$$\square = 390 \div 65 = 6$$

②  $900 \times \square = 2700$   
 $\square = 2700 \div 900 = 3$

③  $25 \times \square = 2100$   
 $\square = 2100 \div 25 = 84$

4  $2.2 \text{ km} = 2200 \text{ m}$  だから  
かかる時間を□分として、道のりを求めるかけ算の  
式をつくと、

$$55 \times \square = 2200$$

$$\square = 2200 \div 55 = 40$$

**おうちのかたへ** 日常生活の中では「速い」「遅い」という言葉をよく使いますが、「速さ」が「道のり」と「時間」の2量の割合であることはあまり意識していないと思われます。ここでは、単位時間に進む「道のり」が「速さ」であることをおさえて取り組ませることが大切です。そのとき、数直線の図を自分でかくように問いかけるとよいでしょう。①①では「時速45 kmは、何を表しているか」を尋ねてもよいでしょう(1時間あたりに45 km進む速さ)。

**しあげの5分レッスン** それぞれの問題で、数直線の図をかいてみよう。

1 ① ア  
 ② 式 (例)  $1 \text{ m}^2$  あたりの人数は、  
 $A \cdots 8 \div 20 = 0.4$   
 $B \cdots 20 \div 48 = 0.416 \cdots$   
 答え Bの部屋

2 ① Aさん...72 m、Bさん...75 m  
 ② Bさん  
 ③ 道のり、時間

3 ① 時速  
 ② 分速  
 ③ 秒速

4 (例) 1分間あたりにコピーできるまい数

5 式  $30 \times 8 = 240$  答え 240 m

6 式  $300 \div 75 = 4$  答え 4 時間

7 式  $1460000 \div 828 = 1763.2 \cdots$   
 答え 約 1800 人

8 式 (例)  $1 \text{ a}$  あたりのとれた小麦の重さは、  
 $A \cdots 770 \div 25 = 30.8$   
 $B \cdots 567 \div 18 = 31.5$  答え Bの畑

9 ① 320 m  
 ② 式  $320 \div 16 = 20 \text{ (m)}$   
 $20 \times 60 \times 60 = 72000 \text{ (m)}$   
 $72000 \text{ m} = 72 \text{ km}$   
 答え 時速 72 km

10 ①

1 ② ならした 1人あたりの面積で比べると、  
 $A \cdots 20 \div 8 = 2.5$   
 $B \cdots 48 \div 20 = 2.4$   
 ならした 1人あたりの面積がせまいほうがこ  
 んでいるから、Bの部屋のほうがこんでいます。

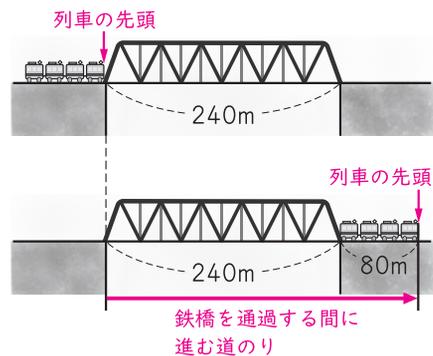
2 ① Aさん... $360 \div 5 = 72 \text{ (m)}$   
 Bさん... $600 \div 8 = 75 \text{ (m)}$   
 ② 1分間あたりに進む道のりが長いほうが速いで  
 す。

5 ✂️ 道のり = 速さ × 時間 で求めるよ。

6 ✂️ 時間 = 道のり ÷ 速さ で求めるよ。

7 ✂️ 人口密度は、ふつうは  $1 \text{ km}^2$  あたりの人口で  
 表し、四捨五入して、上から2けたのがい数  
 にするよ。

9 ① 鉄橋を通過するときの列車の位置は、次のよう  
 になります。



鉄橋を通過する間に、列車が進む道のりは、  
 鉄橋の長さ + 列車の長さ  
 $= 240 + 20 \times 4$   
 $= 320 \text{ (m)}$

10 ア  $12 \times (60 \times 3)$   
 秒速 単位を秒に変える式  
 ①  $(12 \times 60) \times 3$   
 分速に変える式 分

# 13 四角形と三角形の面積

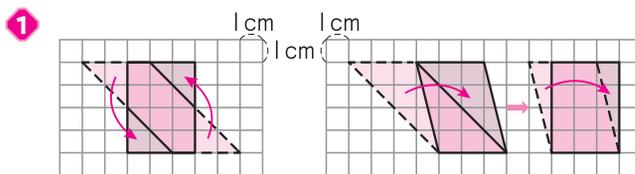
## びっぴり1 準備 86 ページ

- 1 2、3、2、3、6  
 2 (1) 5、6、5、6、30 (2) 6、3、6、3、18 (3) 2、5、2、5、10

## びっぴり2 練習 87 ページ

てびき

- 1 ① (例) たて…4 cm、横…3 cm  
 ②  $12 \text{ cm}^2$
- 2 ①  $9 \text{ cm}^2$     ②  $60 \text{ cm}^2$     ③  $40 \text{ cm}^2$   
 ④  $24 \text{ cm}^2$     ⑤  $65 \text{ cm}^2$     ⑥  $8 \text{ cm}^2$
- 3 (例) 3 つとも、底辺が 2 cm、高さが 4.5 cm だから。
- 4  $12 \text{ cm}^2$



- 1  $\text{平行四辺形の面積} = \text{底辺} \times \text{高さ}$  だよ。
- 2 ② 底辺を 10 cm とすると、高さは 6 cm だから、  
 $10 \times 6 = 60 (\text{cm}^2)$   
 ⑤ 底辺を 5 cm とすると、高さは 13 cm だから、  
 $5 \times 13 = 65 (\text{cm}^2)$
- 4 ㊦と㊧の高さは等しく、底辺の長さは、  
 $2 \div 8 = \frac{1}{4}$  だから、面積も  $\frac{1}{4}$  になります。

**おうちのかたへ** 平行四辺形の面積は、形の特徴を生かして長方形に形を変えることで求められることをおさえておきましょう。

**しあげの5分レッスン** 2 の平行四辺形を方眼用紙にかいて、長方形に形を変えてみよう。

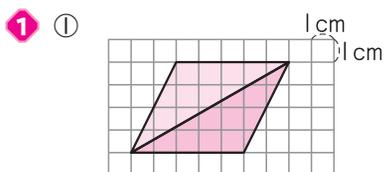
## びっぴり1 準備 88 ページ

- 1 4、2、4、2、4  
 2 (1) 5、4、5、4、10 (2) 12、5、12、2、30 (3) 6、8、6、8、2、24

## びっぴり2 練習 89 ページ

てびき

- 1 ① (例) 底辺…5 cm、高さ…4 cm  
 ②  $10 \text{ cm}^2$
- 2 ①  $75 \text{ cm}^2$     ②  $10.5 \text{ cm}^2$     ③  $24 \text{ cm}^2$   
 ④  $10 \text{ cm}^2$     ⑤  $16 \text{ m}^2$     ⑥  $21 \text{ cm}^2$
- 3 (例) 3 つとも、底辺が 3 cm、高さが 5.5 cm だから。
- 4  $15 \text{ cm}^2$



- 1 ①  $\text{三角形の面積} = \text{底辺} \times \text{高さ} \div 2$  だよ。
- 2 ② 底辺を 7 cm とすると、高さは 3 cm だから、  
 $7 \times 3 \div 2 = 10.5 (\text{cm}^2)$   
 ⑤ 底辺は 4 m、高さは 8 m だから、  
 $4 \times 8 \div 2 = 16 (\text{m}^2)$
- 4 ㊦と㊧の高さは等しく、底辺の長さは、  
 $6 \div 2 = 3$  (倍) だから、面積も 3 倍になります。

**おうちのかたへ** 三角形の面積は、平行四辺形や長方形の面積を半分にするだけで求められることをおさえておきましょう。

**しあげの5分レッスン** 2 の三角形を方眼用紙にかいて、もとにする平行四辺形の形をつくってみよう。

びったり① 準備

90 ページ

- 1 ① 10 ② 4 ③ 6 ④ 10 ⑤ 4 ⑥ 32  
 2 ① 20 ② 8 ③ 20 ④ 2 ⑤ 80

びったり② 練習

91 ページ

てびき

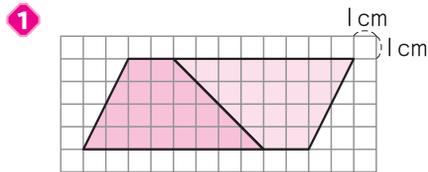
- 1 ① 底辺…10 cm、高さ…4 cm  
 ② 20 cm<sup>2</sup>

- 2 ① 9 cm<sup>2</sup> ② 18 cm<sup>2</sup> ③ 30 cm<sup>2</sup>

- 3 ① たて…4 cm、横…7 cm  
 ② 14 cm<sup>2</sup>

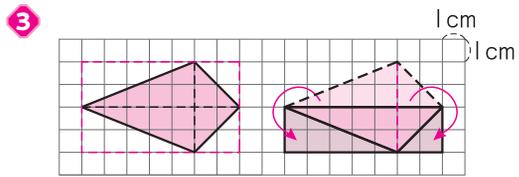
- 4 ① 75 cm<sup>2</sup> ② 32 cm<sup>2</sup> ③ 30 cm<sup>2</sup>

あけの5分レッスン 2 の台形を方眼用紙にかいて、もとにする平行四辺形をつくってみよう。



- 1 台形の面積 = (上底 + 下底) × 高さ ÷ 2 だよ。

- 2 上底は 3 cm、下底は 6 cm、高さは 4 cm だから、 $(3+6) \times 4 \div 2 = 18(\text{cm}^2)$



- 3 上の右の図のように考えると、たて 2 cm、横 7 cm の長方形の面積と等しくなります。

- 4 ひし形の面積 = 一方の対角線 × もう一方の対角線 ÷ 2  
 対角線が垂直に交わる四角形にも使えるよ。

- 2 対角線の長さが 8 cm の正方形です。  
 $8 \times 8 \div 2 = 32(\text{cm}^2)$

びったり① 準備

92 ページ

- 1 (1) ① 6 ② □ ③ ○  
 (2) ④ 6 ⑤ 3 ⑥ 2 ⑦ 9 ⑧ 6 ⑨ 4 ⑩ 2 ⑪ 12  
 ⑫ 9 ⑬ 12 ⑭ 15 ⑮ 18  
 (3) ⑯ 比例 (4) ⑰ 6

びったり② 練習

93 ページ

てびき

- 1 ①  $8 \times \square \div 2 = \bigcirc$   
 ② (左から順に) 4、8、12、16、20、24、28、32  
 ③ 比例している。  
 ④ 9 倍

- 2 ① ㊦  $4.5 \times 1.5 \div 2$   
 ①  $4.5 \times 3 \div 2$   
 ② 2 倍

		2倍	3倍	4倍		2倍		
高さ□(cm)	1	2	3	4	5	6	7	8
面積○(cm <sup>2</sup> )	4	8	12	16	20	24	28	32
		2倍	3倍	4倍		2倍		

- 1 ㊦ □が2倍、3倍、…になると、それにとまって○も2倍、3倍、…になるとき、○は□に比例するというよ。

- 4 ④ 底辺を 8 cm と決めて、高さが、 $27 \div 3 = 9$  (倍) になるから、面積も 9 倍になります。  
 2 ② 底辺が等しく、高さが、 $3 \div 1.5 = 2$  (倍) になるから、面積も 2 倍になります。

- 1 ① 長方形  $FBC E$   
 ②ア 底辺 ① 高さ

- 2 ①  $\frac{1}{2}$  (半分)  
 ②ア 底辺 ① 高さ ウ 2

- 3 ① 式  $9 \times 6 = 54$  答え  $54 \text{ cm}^2$   
 ② 式  $5 \times 8 \div 2 = 20$  答え  $20 \text{ cm}^2$   
 ③ 式  $(8 + 12) \times 7 \div 2 = 70$  答え  $70 \text{ cm}^2$   
 ④ 式  $5 \times 8 \div 2 = 20$  答え  $20 \text{ cm}^2$   
 ⑤ 式  $8 \times 12 \div 2 = 48$  答え  $48 \text{ cm}^2$

- 4 ①  $10 \times \square \div 2 = \bigcirc$   
 ② (左から順に) 5、10、15、20、25  
 比例している。

- 5 ア

- 6 式 (例)  $9 \times 8 = 72$   
 $12 \times \square \div 2 = 72$   
 $12 \times \square = 72 \times 2$   
 $\square = 144 \div 12$   
 $= 12$  答え  $12 \text{ cm}$

- 7  $\frac{1}{2}$  (半分)

- 1 ② 長方形  $FBC E$  の横(辺  $BC$ ) とたて(辺  $EC$ ) は、それぞれ平行四辺形  $ABCD$  の底辺と高さになります。

- 2 ② 平行四辺形  $ABCD$  の底辺(辺  $BC$ ) は、三角形  $ABC$  の底辺です。  
 また、辺  $AD$  と辺  $BC$  は平行だから、平行四辺形と三角形の高さは等しくなります。

3 ✂ 平行四辺形の面積 = 底辺  $\times$  高さ  
 三角形の面積 = 底辺  $\times$  高さ  $\div 2$   
 台形の面積 = (上底 + 下底)  $\times$  高さ  $\div 2$   
 ひし形の面積  
 = 一方の対角線  $\times$  もう一方の対角線  $\div 2$   
 高さは、底辺に垂直な直線の長さのことだよ。まず、どの辺を底辺とするか決めよう。

- ① 底辺を  $9 \text{ cm}$  とすると、高さは  $6 \text{ cm}$  です。  
 ② 底辺を  $5 \text{ cm}$  とすると、高さは  $8 \text{ cm}$  です。

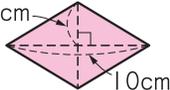
- 4 ② ① でつくった式の  $\square$  に 1、2、3、... と順に数をあてはめます。

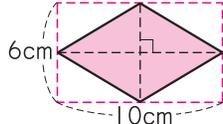
$\square$  が 1 のとき、 $10 \times 1 \div 2 = 5$

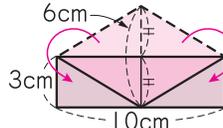
$\square$  が 2 のとき、 $10 \times 2 \div 2 = 10$

⋮

$\square$  (高さ) が 2 倍、3 倍、... になると、それにとまって  $\bigcirc$  (面積) も 2 倍、3 倍、... になるので、 $\bigcirc$  は  $\square$  に比例しています。

- 5 ア  2つの三角形に分けると、  
 $(10 \times 3 \div 2) \times 2$

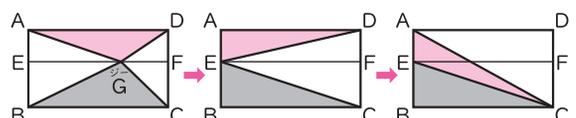
- ①  長方形の半分とみると、  
 $(6 \times 10) \div 2$

- ウ  長方形に形を変えると、  
 $(6 \div 2) \times 10$

- 6 まず、平行四辺形の面積を求めます。  
 三角形の高さを  $\square \text{ cm}$  として、面積を求める式をつくりまます。

- 7 ✂ 底辺の長さが等しく、高さも等しければ、三角形の面積は等しくなるよ。

面積の等しい三角形に変えていきます。



🕒 あげの5分レッスン まちがえた問題をもう1回やってみよう。

# 14 割合

びったり1 準備 96 ページ

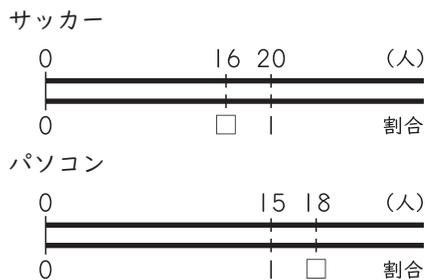
- 1 (1) 3、5、0.6、0.6  
 (2) 3、6、0.5、0.5
- 2 100、10、1、100、100  
 (1) 8 (2) 47 (3) 120 (4) 0.24 (5) 0.007

びったり2 練習 97 ページ

てびき

- 1 式 サッカー… $16 \div 20 = 0.8$   
 パソコン… $18 \div 15 = 1.2$   
 答え サッカー…0.8、パソコン…1.2

1  $\frac{\text{わりあい}}{\text{割合}} = \frac{\text{くら}}{\text{比べられる量}} \div \text{もとにする量}$ だよ。



- 2 式  $18 \div 90 = 0.2$  答え 20%



3  $\frac{\text{ひゃくぶんりつ}}{\text{百分率}}$ は、もとにする量を100とみた割合の表し方だから、割合の|は、100%だね。

- 3 ① 3% ② 48% ③ 50%  
 ④ 175% ⑤ 110% ⑥ 80.5%

割合を表す数	百分率
	100 %
0.1	10 %
0.01	1 %
0.001	0.1 %

3 割合の|が100%だから、小数の割合に100をかければ、百分率で表せるね。

- ⑤  $1.1 \times 100 = 110(\%)$   
 ⑥  $0.805 \times 100 = 80.5(\%)$

- 4 ① 0.95 ② 0.06 ③ 0.8  
 ④ 1.7 ⑤ 0.213 ⑥ 0.002

4  $\frac{\text{ひゃくぶんりつ}}{\text{百分率}}$ 100%が割合の|だから、百分率を100でわれば、小数で表せるね。

- ⑥  $0.2 \div 100 = 0.002$

🎯 **しあげの5分レッスン** まちがえた問題をもう1回やってみよう。

**びったり1 準備**

98 ページ

- 1 ① 0.15 ② 380 ③ 0.15 ④ 57 ⑤ 57  
 2 ① 0.26 ② 0.26 ③ 650 ④ 650 ⑤ 0.26 ⑥ 2500 ⑦ 2500  
 3 ア① 0.15 ② 75 ③ 75 ④ 425  
 イ⑤ 100 ⑥ 0.15 ⑦ 0.15 ⑧ 425

**びったり2 練習**

99 ページ

てびき

1 式  $120 \times 0.85 = 102$       答え 102 個

2 式  $2500 \times 0.8 = 2000$   
 $2500 - 2000 = 500$   
 答え (代金は) 2000 円(で)、500 円(安く買った。)

3 式 (例)  $\square \times 1.2 = 78$   
 $\square = 78 \div 1.2$   
 $= 65$       答え 65 人

4 式 (例)  $\square \times 0.77 = 100$   
 $\square = 100 \div 0.77$   
 $= 129.8\dots$       答え およそ 130 g

5 ① 式  $3400 \times 0.2 = 680$   
 $3400 - 680 = 2720$       答え 2720 円  
 ② 式  $3400 \times (1 - 0.2) = 2720$   
 答え 2720 円

6 式  $200 \times 0.3 = 60$      $200 + 60 = 260$   
 $(200 \times (1 + 0.3) = 260)$   
 答え 260 円

1 比べられる量 = もとにする量 × 割合だよ。

85% は、小数で表すと 0.85 です。



2 80% は、小数で表すと 0.8 です。



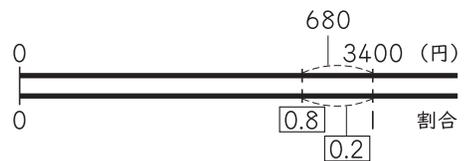
3 120% は、小数で表すと 1.2 です。  
 もとにする量は、6 年生の人数です。



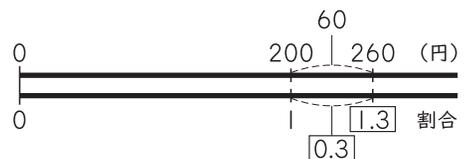
4 77% は、小数で表すと 0.77 です。  
 もとにする量は、白米の重さです。



5 20% は、小数で表すと 0.2 です。  
 もとにする量は、もとのねだんの 3400 円です。  
 ① 安くなった金額は、3400 円の 20% にあたります。  
 ② 代金は、3400 円の  $100 - 20 = 80(\%)$  にあたります。



6 30% は、小数で表すと 0.3 です。  
 もとにする量は、仕入れのねだんの 200 円です。



**おうちのがたへ** もとにする量を 1 とみたとき、比べられる量がどれだけにあたるかを表すのに、割合が使われます。割合を表す百分率や歩合は、日常ではよく使われますので、割合と、もとにする量、比べられる量の関係を、生活場面を通じてしっかりと学習させておきましょう。

**しあげの5分レッスン** それぞれの問題で、比べられる量と、もとにする量を書き出してみよう。

- 1 ① もとにする量…200g  
くら  
 比べられる量…32g  
わりあい  
 割合…0.16  
 ② 比べられる量、もとにする量
- 2 ① 12% ② 140% ③ 38.5%
- 3 ① 0.9 ② 1.05 ③ 0.072
- 4 ① 60%  
 ② 120人  
 ③ 40m<sup>2</sup>
- 5 式  $27 \div 164 = 0.164\dots$   
 答え およそ 16%
- 6 式  $4500 \times 0.85 = 3825$  答え 3825円
- 7 式  $400 \times 1.1 = 440$  答え 440人
- 8 式 (例) 学校全体の児童数を□人すると、  
 $\square \times 0.04 = 18$   
 $\square = 18 \div 0.04$   
 $= 450$  答え 450人
- 9 式  $3800 \times 0.25 = 950$   
 $3800 - 950 = 2850$   
 $(3800 \times (1 - 0.25) = 2850)$   
 答え 2850円
- 10 式  $120 \times (1 + 0.25) = 150$   
 $(120 \times 0.25 = 30 \quad 120 + 30 = 150)$   
 答え 150円

- 1 ① もとにする量を1とみます。
- 2  割合の1が100%だから、小数の割合に100をかければ、百分率ひゃくぶんりつで表せるね。  
 ③  $0.385 \times 100 = 38.5(\%)$
- 3  100%が割合の1だから、百分率を100でわれば、小数で表せるね。  
 ③  $7.2 \div 100 = 0.072$
- 4 ①  $48 \div 80 = 0.6 \quad 0.6 \times 100 = 60(\%)$   
 ②  $40 \div 100 = 0.4 \quad 300 \times 0.4 = 120(\text{人})$   
 ③ 花だんの面積を□m<sup>2</sup>とすると、  
 $\square \times 0.3 = 12 \quad \square = 12 \div 0.3 = 40(\text{m}^2)$
- 5 ししゃごにゅう  
 四捨五入して上から2けたのがい数で表すから、上から3けための数字を四捨五入します。
- 6 85%は小数で表すと0.85です。
- 7 110%は小数で表すと1.1です。
- 8 **もとにする量** × **割合** = **比べられる量** を使って、式をつくります。
- 9 安くなった金額きんがくは、3800円の25%で小数で表すと0.25にあたります。  
 よって代金は、もとのねだんの75%で小数で表すと0.75になります。
- 10 売るねだんは、仕入れのねだんの100%に利益りえきを25%加えたものだから、小数で表すと1+0.25にあたります。  
 $120 \times (1 + 0.25) = 150(\text{円})$   
 また、利益を求めて、仕入れのねだんにたす求め方もあります。  
 利益は、仕入れのねだんの25%だから、  
 $120 \times 0.25 = 30(\text{円})$   
 売るねだんは、 $120 + 30 = 150(\text{円})$

 **おうちのかなへ** 割合を活用した事例は日常生活のいたる所で見られます。これらを題材にした問題を、子どもたちといろいろ出し合って、話し合ってみるとよいでしょう。

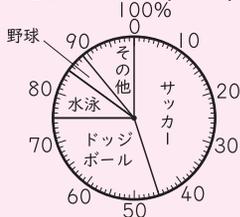
 **しあげの5分レッスン** まちがえた問題をもう1回やってみよう。

# 15 帯グラフと円グラフ

## びっぴり1 準備 102 ページ

- 1 (1)① 75    ② 40    ③ 35  
 (2)④ 40    ⑤ 10    ⑥ 40    ⑦ 10    ⑧ 4
- 2 ① 12    ② 120    ③ 10    ④ 5    ⑤ 120    ⑥ 4

好きなスポーツ(5年生)

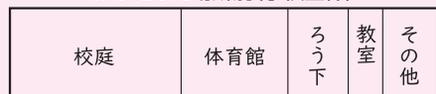


## びっぴり2 練習 103 ページ

てびき

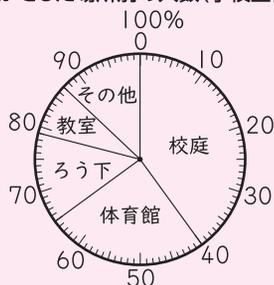
- 1 ① 26%    ② およそ  $\frac{1}{2}$     ③ およそ 2 倍
- 2 ① 22%    ② 4 倍
- 3 表 (上から順に) 40、25、14、8、13

けがをした場所別(学校全体)



0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100%

けがをした場所別の人数(学校全体)



- 1 ② ふくし<sup>ひ</sup>費と土木費をあわせると、  
 47% → 約 50%
- ③ 土木費は、 $47 - 26 = 21$ (%)  
 衛生費は、 $70 - 60 = 10$ (%)  
 土木費は、衛生費の  $21 \div 10 = 2.1$ (倍)です。

- 2 ① 西町は、 $54 - 32 = 22$ (%)  
 ② 東町は 32%  
 北町は、 $78 - 70 = 8$ (%)  
 東町は、北町の  $32 \div 8 = 4$ (倍)です。

- 3 表の百分率は、一の位までのがい数にします。  
 $33 \div 80 = 0.4125 \rightarrow 41\% \rightarrow 40\%$   
 $20 \div 80 = 0.25 \rightarrow 25\%$   
 $11 \div 80 = 0.1375 \rightarrow 14\%$   
 $6 \div 80 = 0.075 \rightarrow 8\%$   
 $10 \div 80 = 0.125 \rightarrow 13\%$   
 計 101% → 100%  
 合計を 100% にするために、割合のいちばん大きい校庭を 1% 減らします。

**おうちのがたへ** それぞれの割合を見やすくするために、帯グラフや円グラフで表すことがあります。日常の場面でよく見られますので、見方やかき方をしっかり学習させておくことが大切です。

**しあげの5分レッスン** ①②について、帯グラフや円グラフからそれぞれの割合を調べてみよう。

## びっぴり1 準備 104 ページ

- 1 (1) 3    (2) 15、15    (3) 12、18、18、12、1.5    (4) 6  
 (5) 40、0.4、48、35、140、0.35、49

## びっぴり2 練習 105 ページ

てびき

- 1 ① A村…<sup>エー</sup>20%、B村…<sup>ビー</sup>25%  
 ② およそ  $\frac{1}{4}$

- 1 ① 帯グラフから、A村は、 $60 - 40 = 20$ (%)  
 B村は  $45 - 20 = 25$ (%)です。  
 ② B村の果じゅ園の割合は、 $69 - 45 = 24$  で  
 およそ 25% です。

- ③ A村
- ④ A村…4 km<sup>2</sup>、<sup>ビー</sup>B村…12.5 km<sup>2</sup>
- ⑤ 5倍
- ⑥ 考えは 正しくない。

理由… (例) A村の面積は 20 km<sup>2</sup> で、水田の割合は 40 % だから、 $20 \times 0.4 = 8$  (km<sup>2</sup>)  
 B村の面積は 50 km<sup>2</sup> で、水田の割合は 20 % だから、 $50 \times 0.2 = 10$  (km<sup>2</sup>)  
 割合はA村のほうが大きい、面積はB村のほうが大きいので、考えは正しくない。

- ③ 帯グラフは、横の長さが長いほうが割合が大きいの、たてにならべた帯グラフを利用すると、かん単に割合を比べることができます。  
 帯グラフで、A村のほうが横が長くなっています。
- ④ A村は全体が 20 km<sup>2</sup> で、畑の割合は 20 % だから、  
 $20 \times 0.2 = 4$  (km<sup>2</sup>)  
 B村は全体が 50 km<sup>2</sup> で、畑の割合は 25 % だから、  
 $50 \times 0.25 = 12.5$  (km<sup>2</sup>)
- ⑤ 割合は、水田は 40 %、たく地は 8 % だから、水田は、たく地の  $40 \div 8 = 5$  (倍) です。
- ⑥ 割合は、全体をもとにして各部分を比べたものなので、全体の面積がちがうA村とB村を、割合だけで比べることはできません。

**おうちのかたへ** 帯グラフをたてにならべると、それぞれの割合を比べやすいことがわかります。そのとき、全体や部分の数量もきちんと確かめていくように指導しましょう。

**しげの5分レッスン** A村とB村について、それぞれの土地利用の面積を求めてみよう。

**ひょうり 3 確かめのテスト**

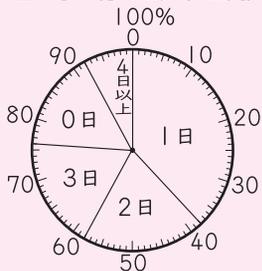
106~107 ページ

てびき

- 1 ① 53 %    ② およそ  $\frac{1}{4}$
- 2 ① 17 %    ② 2.2 倍
- 3 好きなスポーツ(5年生)



- 4 習い事に行く日数(1週間)



- 5 ① A小学校…30 %、B小学校…22 %
- ② およそ  $\frac{1}{5}$     ③ 3.5 倍
- ④ 記号…㊸

理由… (例) A小学校の物語の数は、4000 さつの 35 % だから、  
 $4000 \times 0.35 = 1400$  (さつ)  
 B小学校の物語の数は、3500 さつの 40 % だから、  
 $3500 \times 0.4 = 1400$  (さつ)  
 2つの小学校の物語の数は同じ。

- 1 ② バスとトラックをあわせると、  
 $80 - 53 = 27$  (%)  
 およそ 25 % とみて、 $25 \div 100 = \frac{1}{4}$
- 2 ② カレーライスの割合は 33 %、シチューの割合は 15 % だから、 $33 \div 15 = 2.2$  (倍)
- 3 割合の大きい順に、各部分をそれぞれの百分率にしたがって区切ります。  
 「その他」は最後に入れます。
- 4 表の日数順ではなく、割合の大きい順に、それぞれの百分率にしたがって区切っていきます。
- 5 ② B小学校の伝記の割合は 22 % だから、およそ 20 % とみます。  
 ③ A小学校の物語の割合は 35 %、図かんの割合は 10 % だから、  
 $35 \div 10 = 3.5$  (倍)  
 ④ 割合は、部分と全体、部分どうしを比べるものです。全体の本の数がちがうので、2つの学校の物語の数を、割合で比べることはできません。  
 2つの帯グラフから、それぞれの学校の「全体の本の数」と物語の「割合」を読み取って、物語の数をそれぞれ求めて比べます。

# 16 変わり方調べ

**びったり1 準備** 108 ページ

- 1 ① 30 ② 1 ③ 30 ④ 1 ⑤ 2 ⑥ 30 ⑦ 61 ⑧ 1 ⑨ 2

**びったり2 練習** 108 ページ

**てびき**

- 1 ① ア 2 ① 9 ウ 11 エ 3  
 ② 29 カ 3 キ 1 ク 61  
 ② (例)  $3+2\times(\square-1)=\bigcirc$

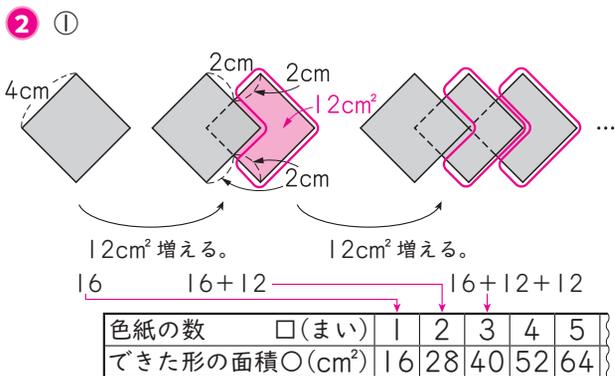
- 1 ② ①で求めた式  $3+2\times(30-1)=61$  に□と○をあてはめます。

**びったり3 確かめのテスト** 109 ページ

**てびき**

- 1 ① (左から順に) 4、7、10、13、16、19  
 ② (例) 3本ずつ増える。  
 ③ (例)  $1+3\times\square=\bigcirc$   
 ④ 式 (例)  $1+3\times 40=121$   
 答え 121本

- 2 ① (左から順に) 16、28、40、52、64  
 ② (例)  $16+12\times(\square-1)=\bigcirc$   
 ③ 式 (例)  $16+12\times(21-1)=256$   
 答え  $256\text{ cm}^2$



- ② ①より、 $16+12\times(\square-1)=\bigcirc$   
 右の図のように考えて  
 $4+12\times\square=\bigcirc$   
 と表すこともできます。
- 

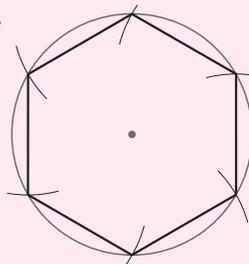
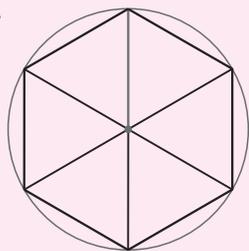
**おうちのがたへ** この単元で取り上げた事例のように、身のまわりのちょっとした素材を使うことで数学的な考える力をのばすことができます。このとき、図や表を使って調べさせるようにしましょう。何通りかの調べ方を考えさせることも大切です。また、このような取り組みを、いろいろな図形について行わせてみましょう。

**しあげの5分レッスン** ①②について、別の考え方でやってみよう。

# 17 正多角形と円周の長さ

**びったり1 準備** 110 ページ

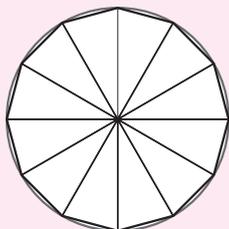
- 1 等しく、等しい、正九角形  
 2 ① 60 答え ② 半径 答え



- 1 ① 正七角形 ② 正十角形
- 2 ① 正多角形と いえない  
理由… (例) 角の大きさが等しくないから。  
② 正多角形と いえない  
理由… (例) 辺の長さが等しくないから。

- 3 ① 120° ② 40°

4



- 1 <sup>ちうてん</sup> 頂点の数を数えます。

- 2 正多角形は、辺の長さがすべて等しく、角の大きさもすべて等しい多角形だよ。

- 3 ① 円の中心のまわりの角を 3 等分しています。  
② 円の中心のまわりの角を 9 等分しています。

- 4 円の中心のまわりの角を 12 等分するので、  
 $360 \div 12 = 30$

**おうちのかたへ** 正多角形をかくには、円の中心のまわりの角を等分して半径をかき、円と交った点を頂点として、これらを結びます。円を利用することを気づかせるとういでしょう。

**しあげの5分レッスン** ①について、正十角形をかいてみよう。

- 1 (1) 6、3.14、18.84  
(2) ①  $\frac{2}{ひれい}$  ② 10 ③ 10 ④ 3.14 ⑤ 31.4
- 2 (1) 比例 (2) 2、2

- 1 約 3.14 倍
- 2 ① 28.26 cm ② 50.24 cm  
③ 188.4 cm
- 3 約 6.4 cm
- 4 14.28 cm
- 5 ① (左から順に) 6.28、12.56、18.84、25.12、31.4、37.68、43.96  
② 比例している。  
③ 3 倍

- 1  $42.4 \div 13.5 = 3.140 \dots$

- 2 円周 = 直径  $\times$  円周率 (3.14) だよ。

- ①  $9 \times 3.14 = 28.26$  (cm)  
② 直径は、 $8 \times 2 = 16$  (cm) だから、  
 $16 \times 3.14 = 50.24$  (cm)  
③  $60 \times 3.14 = 188.4$  (cm)

- 3 直径の長さを  $\square$  cm とすると、  
 $\square \times 3.14 = 20$   
 $\square = 20 \div 3.14$   
 $= 6.36 \dots$

- 4 直径は、 $4 \times 2 = 8$  (cm)  
 $8 \times 3.14 \div 4 + 4 \times 2 = 14.28$  (cm)

曲線部分 (円周の  $\frac{1}{4}$ ) 直線部分 (半径 2 つ分)

- 5 ②

半径 (cm)	1	2	3	4
円周 (cm)	6.28	12.56	18.84	25.12

Diagram showing arrows indicating that the circumference is 2 times the radius for each value, and 3 times the radius for the next value.

半径が 2 倍、3 倍、…になると、それにとまって円周も 2 倍、3 倍、…になるので、円周は半径に比例しています。

- ③ 半径が、 $18 \div 6 = 3$  (倍) になるので、円周も 3 倍になります。

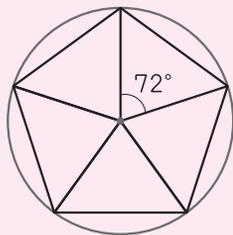
**おうちのかたへ** 円周率 3.14 は円周を求める計算だけではなく、6年生で学習する円の面積を求める計算でも使います。円周の長さは直径の長さの何倍になっているか、身近にあるいろいろな大きさの円で調べてみると理解が深まります。

**しあげの5分レッスン** まちがえた問題をもう1回やってみよう。

- 1 3.14、円周率(3.14)
- 2 ① 60° ② 5 cm
- 3 ① 式  $7 \times 3.14 = 21.98$  答え 21.98 cm  
② 式  $15 \times 2 = 30$   
 $30 \times 3.14 = 94.2$  答え 94.2 cm
- 4 100 m

- 5 ①  $\square \times 3.14 = \bigcirc$   
② 比例している。

- 6 ① 72° ②



- 7 式  $10 \times 3.14 \div 2 + 5 \times 3.14 + 10 = 41.4$   
答え 41.4 cm

- 8 同じ  
理由 (例) A...<sup>エー</sup> $1 \times 3.14 = 3.14$  (km)  
B...<sup>ビー</sup> $0.5 \times 3.14 \times 2 = 3.14$  (km)  
どちらのコースも1周の長さが3.14 kmだから。

- 2 ① 円の中心のまわりの角を6等分します。  
② 6つの合同な正三角形に分けられます。

- 3 円周 = 直径 × 円周率(3.14)だよ。

- 4 円の直径を□mとすると、  
 $\square \times 3.14 = 628$   
 $\square = 628 \div 3.14 = 200$   
直径が200mなので半径は、 $200 \div 2 = 100$ (m)

- 5 ② 直径の長さが2倍、3倍、...になると、それにとまって円周の長さも2倍、3倍、...になるので、円周の長さは直径に比例しています。

- 6 ① 円の中心のまわりの角を5等分するので、  
 $360 \div 5 = 72$

- 7 曲線部分は、直径10cmの円の円周の半分と直径5cmの円の円周です。直線部分は、直径の10cmです。

次のように考えることもできます。  
直径10cmの円の円周は、直径5cmの円の円周の2倍だから、直径10cmの円の円周の半分は、直径5cmの円の円周と等しくなります。  
このことから、 $5 \times 3.14 \times 2 + 10 = 41.4$ (cm)

- 8 次のように考えることもできます。  
 $1 \times 3.14$  ← Aコースの1周の長さ  
 $= (0.5 \times 2) \times 3.14$   
 $= 0.5 \times 3.14 \times 2$  ← Bコースの1周の長さ

## 18 角柱と円柱

### びっぴり1 準備 116 ページ

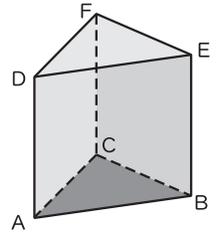
- 1 (1) 長方形 (2) 3、4、5
- 2 (1) 円 (2) 平行、合同(または、合同、平行)

### びっぴり2 練習 117 ページ

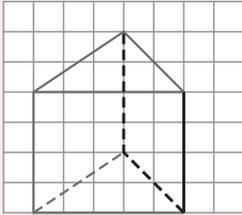
- 1 ① 四角柱 ② 円柱
- 2 ① 平行 ② 垂直
- 3 長方形、正方形(または正方形、長方形)
- 4 曲面
- 1 ① 底面が四角形で、平面だけで囲まれています。  
② 底面が円で、側面が曲面になっています。

- 3 ① 三角形 ② 三角柱 ③ ウ

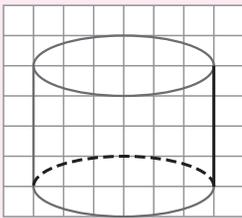
- 3 角柱の2つの底面は平行で、合同になっていることから、底面は三角形<sup>エービーシー</sup>ABCと三角形<sup>ディーイーエフ</sup>DEFです。  
問題の図は、右の図のような三角柱を、たおしたものです。



- 4 ①



- ②



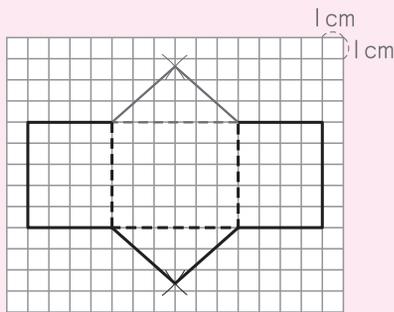
- 4 ✂️ 見えない部分は点線でかこう。  
辺の平行や垂直<sup>すいちよく</sup>の関係に注意してかこう。

**🏠 おうちのかたへ** 身のまわりのものから角柱や円柱の形をしたものをさがして、底面、側面、高さについてしっかりおさえておきましょう。この内容は、6年生の角柱や円柱の体積の学習につながっていきます。

**🕒 15分レッスン** 身のまわりの角柱や円柱の形をしたものの見取図をかいてみよう。

**びったり1 準備** 118ページ

- 1 5 (例)

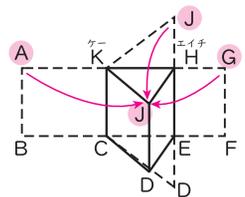


- 2 ① 長方形 ② 4 ③ 円周 ④ 3.14 ⑤ 18.84

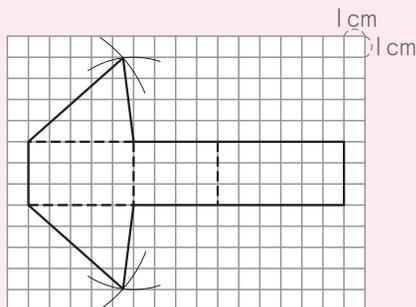
**びったり2 練習** 119ページ

- 1 ① 三角柱 ② 4 cm ③ 点G、点J<sup>ジー</sup>

- 1 組み立てると、右の図のような三角柱になります。

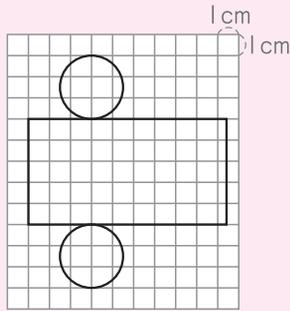


- 2 ① 三角柱 ② 3 cm  
③ (例)



3 ① 5、9.42、長方形

② (例)



3 ① 展開図の側面の長方形で、  
たて…円柱の高さの 5 cm  
横…底面の円周の長さに等しいから、  
 $3 \times 3.14 = 9.42(\text{cm})$

**おうちのかなへ** 角柱や円柱の展開図をかいたり、展開図から角柱や円柱を組み立てることで、立体図形の見方がひろがります。特に円柱では、展開図を組み立てることで、側面となる長方形の横の長さが、底面の円周になることが実感できます。

**しあげの5分レッスン** 展開図をかく問題について、解答したもの以外の展開図をかいてみよう。

**びんごり 3 確かめのテスト**

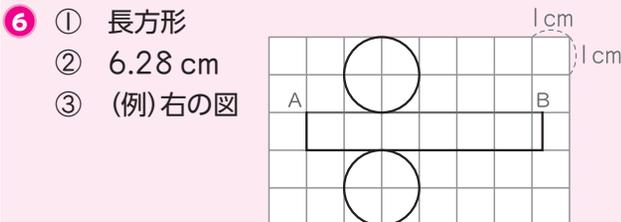
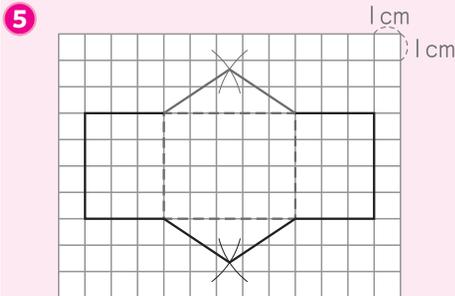
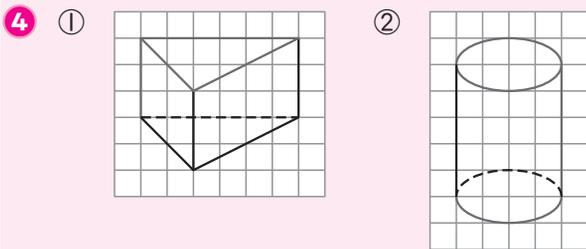
120~121 ページ

アビキ

1 ① 底面 ② 側面 ③ 高さ  
アの名前…六角柱 ①の名前…円柱

2 ① 5 ② 4 ③ 6  
④ 10 ⑤ 12 ⑥ 15

3 ① 平行、合同 ② 垂直 ③ 曲面



7 ① 2 cm  
② たて…4 cm 横…12.56 cm

2 側面の数…底面の辺の数に等しい。  
頂点の数…(底面の頂点の数)×2  
辺の数…(底面の辺の数)×3

4 見えない部分は点線でかこう。  
辺の平行や垂直の関係に注意してかこう。

5 展開図をかいたら、重なる辺の長さが等しくなっているか確かめましょう。

6 ② 底面の円周の長さに等しいから、  
 $2 \times 3.14 = 6.28(\text{cm})$

7 ② 側面となる図形は長方形です。  
たては、円柱の高さに等しいから、4cm  
横は、底面の円周の長さに等しいから、  
 $4 \times 3.14 = 12.56(\text{cm})$





3 辺BC

4 ① 式  $360 - (50 + 70 + 135) = 105$   
 答え  $105^\circ$

② 式  $180 - (30 + 70) = 80$   
 $180 - 80 = 100$  答え  $100^\circ$

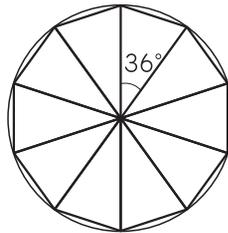
5 ① 10等分  
 ② 式  $360 \div 10 = 36$  答え  $36^\circ$

6 式  $3.5 \times 2 = 7$   
 $7 \times 3.14 = 21.98$  答え  $21.98 \text{ cm}$

- 3 合同な三角形をかくのに必要な長さや角度
- ・ 2つの辺の長さとその間の角の大きさ
  - ・ 1つの辺の長さとその両はしの2つの角の大きさ
  - ・ 3つの辺の長さ

- 4 三角形の3つの角の大きさの和は  $180^\circ$ 、  
 四角形の4つの角の大きさの和は  $360^\circ$  だよ。

- 5 次のようにして、正十角形をかきます。



- 6 円周 = 直径  $\times$  円周率(3.14)だよ。

まとめのテスト

126 ページ

てびき

- 1 ① 比例している。  
 ② 比例していない。

2 式  $(80 + 20 + 30 + 50 + 0 + 40 + 60) \div 7$   
 $= 40$  答え 40分間

3 式  $(8.7 + 9.2 + 8.9 + 8.8 + 8.9) \div 5$   
 $= 8.9$  答え 8.9秒

4 式  $1490000 \div 2282 = 652.9 \dots$   
 $3690000 \div 7777 = 474.4 \dots$   
 答え 沖縄県

- 5 ① 180 km  
 ② 秒速 5 m  
 ③ 72 km

- 1 ①

横の長さ □ (cm)	1	2	3	4
体積 ○ (cm <sup>3</sup> )	54	108	162	216

Diagram annotations: A bracket from 1 to 2 is labeled "2倍", and a bracket from 2 to 3 is labeled "3倍". Another bracket from 2 to 3 is labeled "2倍", and a bracket from 3 to 4 is labeled "3倍".

□ cm が 2 倍、3 倍、…になると、○ cm<sup>3</sup> も 2 倍、3 倍、…になっています。

- ② □ m が 2 倍、3 倍、…になっても、○ m は 2 倍、3 倍、…になっていません。

- 2 平均 = 合計  $\div$  個数 だよ。

- 4 人口密度 (1 km<sup>2</sup> あたりの人口) を求めて比べます。  
 上から 2 けたのがい数で表すと、1 km<sup>2</sup> あたりに、  
 沖縄県は約 650 人、静岡県は約 470 人住んでいることとなります。

- 5 ①  $60 \times 3 = 180 \text{ (km)}$   
 ②  $125 \div 25 = 5 \text{ (m)}$   
 ③  $1.5 \times 48 = 72 \text{ (km)}$

- 6 ① 9  
② 40

- 6 ① 1時間は60分なので、  
 $150 \times 60 = 9000$ (m)  
1 km = 1000 m より 9000 m は 9 km です。  
② 1 km は 1000 m なので、  
 $1000 \div 25 = 40$ (秒)

## まとめのテスト

127 ページ

てびき

- 1 ① 0.07 ② 0.2  
③ 1.73 ④ 0.009

- 2 ① 170 ② 0.63 ③ 300

- 3 ① 式  $14 \div 20 = 0.7$  答え 70 %  
② 式  $360 \times 0.15 = 54$  答え 54 人

- 4 ① 30 % ② およそ  $\frac{1}{2}$

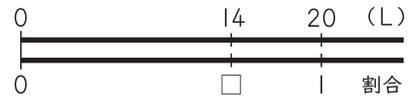
- 5 ① 45 % ② 12 % ③ 2 倍

- 1 ✂ 100% が割合だから、百分率を100でわれば、小数で表せるね。

割合を表す数	1	0.1	0.01
百分率	100 %	10 %	1 %

- 2 ①  $6.8 \div 4 = 1.7$   $1.7 = 170 %$   
②  $35 % = 0.35$   $1.8 \times 0.35 = 0.63$   
③  $20 % = 0.2$   $60 \div 0.2 = 300$

- 3 ① ✂ 割合 = 比べられる量  $\div$  もとにする量 だよ。



- ② ✂ 比べられる量 = もとにする量  $\times$  割合 だよ。



- 4 ② スギ...40 %  
ヒノキ... $83 - 70 = 13$ (%)  
スギとヒノキをあわせると 53 % だから、約 50 % とみます。

- 5 ② 帯グラフの 65 % から 77 % までが野菜の重さの割合なので、 $77 - 65 = 12$ (%)  
③ パンの重さの割合は、 $65 - 45 = 20$ (%)  
魚の重さの割合は、 $87 - 77 = 10$ (%)  
よって、 $20 \div 10 = 2$  2 倍

## プログラミングを体験しよう!

### 正多角形をかき手順を考えよう

128 ページ

てびき

- ☆ ア 10 ① 72 ㊦ 5

- ☆ 正五角形は、「10 cm 進み  $72^\circ$  右に回転する」という作業を 5 回くり返すことでかけます。

- ☆ ア 3 ① 36 ㊦ 10

- ☆  $180^\circ$  から  $144^\circ$  をひくと  $36^\circ$  になるので、☆と同じように考えると、正十角形は、「3 cm 進み  $36^\circ$  右に回転する」という作業を 10 回くり返すことでかけます。



1 ① 100 ② 100

2  $2.8 \times 0.9$

3 ① 7.56 ② 21.996  
③ 0.864 ④ 0.294

4 ①  $4 \times 8.7 \times 2.5$   
 $= 8.7 \times 4 \times 2.5$   
 $= 8.7 \times (4 \times 2.5)$   
 $= 8.7 \times 10$   
 $= 87$   
 ②  $9.9 \times 18$   
 $= (10 - 0.1) \times 18$   
 $= 10 \times 18 - 0.1 \times 18$   
 $= 180 - 1.8$   
 $= 178.2$

5 ア、ウ

6 ① 3.4 ② 27  
③ 4あまり0.7 ④ 3.3

1 ① 小数や整数を10倍、100倍、…すると、位は、それぞれ1けた、2けた、…ずつ上がります。小数点はそれぞれ右に1けた、2けた、…うつります。

右に2けた

0.905

90.5

② 小数や整数を  $\frac{1}{10}$ 、

$\frac{1}{100}$ 、…にすると、

位は、それぞれ1けた、2けた、…ずつ下がります。小数点はそれぞれ左に1けた、2けた、…うつります。

左に2けた

9050.

90.5

2 小数をかけるかけ算では、1より小さい数をかけると、積はかけられる数より小さくなります。

3 ③ 
$$\begin{array}{r} 0.54 \\ \times 1.6 \\ \hline 324 \\ 54 \\ \hline 0.864 \end{array}$$

④ 
$$\begin{array}{r} 0.35 \\ \times 0.84 \\ \hline 140 \\ 280 \\ \hline 0.2940 \end{array}$$

一の位に0を書く。

右はしの0を消す。

4 ① まず、4と8.7の順序をかえてから、  
 $(\blacksquare \times \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times (\bullet \times \blacktriangle)$  の計算のきまりを使って考えます。  
 ② まず、 $9.9 = 10 - 0.1$  としてから、  
 $(\blacksquare - \bullet) \times \blacktriangle = \blacksquare \times \blacktriangle - \bullet \times \blacktriangle$  の計算のきまりを使って考えます。

5 小数でわるわり算では、1より小さい数でわると、商はわられる数より大きくなります。

6 ③ 
$$\begin{array}{r} 4 \\ 4.2 \overline{) 17.5} \\ \underline{168} \\ 0.7 \end{array}$$

④ 
$$\begin{array}{r} 3 \\ 7.3 \overline{) 23.9} \\ \underline{219} \\ 200 \\ \underline{146} \\ 540 \\ \underline{511} \\ 29 \end{array}$$

7  $48 \text{ cm}^3$

8 ① 式  $3 \times 3 \times 3 = 27$

答え  $27 \text{ m}^3$

② 式  $80 \times 400 \times 60 = 1920000$

答え  $1920000 \text{ cm}^3$

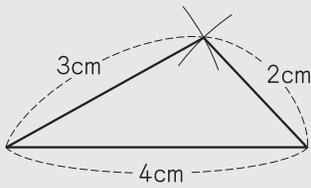
9 式  $20 \times 45 \times 30 = 27000$

$27000 \text{ cm}^3 = 27 \text{ L}$

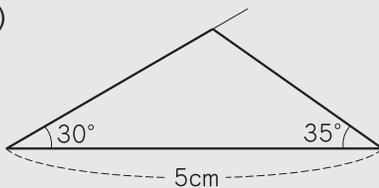
答え  $27 \text{ L}$

10 三角形シーディーイーCDE

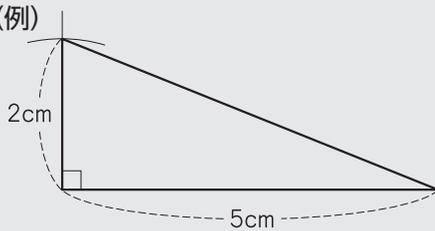
11 ① (例)



② (例)



③ (例)



12 ① 比例している。

② 比例していない。

13 39.751

14 ① 式  $9 \div 15 = 0.6$

答え  $0.6 \text{ 倍}$

② 式  $15 \times 0.2 = 3$

答え  $3 \text{ m}$

15 式 あいこさんのおこづかいを□円とすると、

$\square \times 2.5 = 1500$

$\square = 1500 \div 2.5$

$= 600$

答え  $600 \text{ 円}$

16 式  $6 \times 6 \times 3 - 3 \times 2 \times 3 = 90$

答え  $90 \text{ cm}^3$

7  $1 \text{ cm}^3$ の立方体が、1だんめに $4 \times 4 = 16$ (こ)

ならび、これが3だんあるので、全部の数は、

$16 \times 3 = 48$ (こ)で、 $48 \text{ cm}^3$

8 ① 立方体の体積 = 1辺 × 1辺 × 1辺

② 直方体の体積 = たて × 横 × 高さ

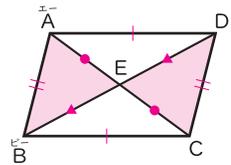
「 $\text{cm}^3$ 」単位で体積を求めるから、 $4 \text{ m} = 400 \text{ cm}$

としてから計算します。

9 この水そうの内のは、たて  $20 \text{ cm}$ 、横  $45 \text{ cm}$ 、

深さ  $30 \text{ cm}$ です。まず、何 $\text{cm}^3$ かを求めます。

10 平行四辺形の向かい合った  
辺の長さは等しく、2本の  
対角線はそれぞれの真ん中  
の点で交わります。



11 ✂️ かく前に、だいたいそうぞうの形や大きさを想像して、  
どこからかき始めればよいか考えよう。

12 ① □ cm が 2 倍、3 倍、…になると、○ cm も  
2 倍、3 倍、…になっています。

② □ cm が 2 倍、3 倍、…になっても、○ cm  
は 2 倍、3 倍、…になっていません。

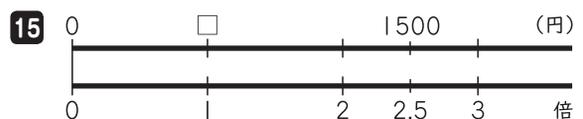
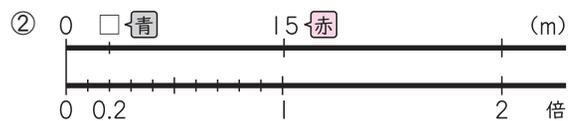
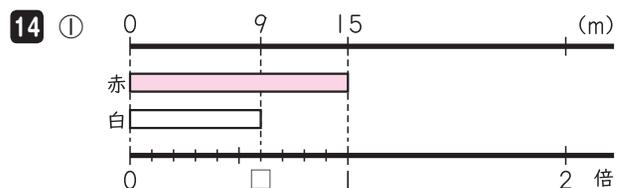
13 45 より大きく、45 にいちばん近い数は、

$51.379$  ← 十の位に5、以下小さい順に置く。

45 より小さく、45 にいちばん近い数は、

$39.751$  ← 十の位に3、以下大きい順に置く。

この2つの数のうち、45 との差が小さい数が答え  
になります。



16 みきさんの考えは、全体からへこんでいるところを  
ひいています。



# 冬のチャレンジテスト

てびき

1 ぐうすう 偶数…2、8、78、210  
きすう 奇数…5、31、651

2 ① 公倍数…30、60  
最小公倍数…30  
② 公倍数…60、120  
最小公倍数…60

3 ① 公約数…1、3、7、21  
最大公約数…21  
② 公約数…1、2、3、6  
最大公約数…6

4 ① 7 ② 13

5  $\frac{10}{30}$ 、 $\frac{6}{18}$

6 ① > ② <

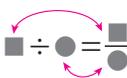
7 ①  $\frac{14}{15}$  ②  $\frac{7}{15}$  ③  $1\frac{7}{12}$  ( $\frac{19}{12}$ )  
④  $1\frac{1}{2}$  ( $\frac{3}{2}$ ) ⑤  $\frac{11}{18}$  ⑥  $\frac{1}{10}$  (0.1)

8 ①  $80^\circ$  ②  $105^\circ$  ③  $40^\circ$

1 2でわりきれぬ整数を、偶数といいます。  
2でわりきれぬ整数を、奇数といいます。

2 公倍数は、最小公倍数の倍数になっています。

3 公約数は、最大公約数の約数になっています。

4 

5 約分して  $\frac{1}{3}$  になる分数をさがします。

6 分数を小数で表して、大小を比べます。

①  $\frac{3}{4} = 3 \div 4 = 0.75$  だから、 $0.75 > 0.6$

②  $\frac{23}{5} = 23 \div 5 = 4.6$  だから、 $4.5 < 4.6$

7 ⑤  $\frac{1}{9} = 1 \div 9 = 0.111\dots$  で、小数で表せないの  
で、分数にそろえて計算します。

$$\begin{aligned} 0.5 + \frac{1}{9} &= \frac{1}{2} + \frac{1}{9} \\ &= \frac{9}{18} + \frac{2}{18} \\ &= \frac{11}{18} \end{aligned}$$

⑥ 小数を分数にそろえても、分数を小数にそろえてもよいです。

$$\text{分数にそろえる場合、} \frac{2}{5} - 0.3 = \frac{2}{5} - \frac{3}{10}$$

$$\text{小数にそろえる場合、} \frac{2}{5} - 0.3 = 0.4 - 0.3$$

8 三角形の3つの角の大きさの和は  $180^\circ$ 、四角形の4つの角の大きさの和は  $360^\circ$  です。

①  $180 - (45 + 55) = 80$

② まず、①のとなりの角度を求めます。

$$360 - (130 + 70 + 85) = 75$$

$$180 - 75 = 105$$

③ 二等辺三角形は、2つの角の大きさが等しいから、 $180 - (70 + 70) = 40$

9 ①  $9\text{ cm}^2$  ②  $20.4\text{ cm}^2$  ③  $11\text{ cm}^2$

10 ① 式  $(42+38+37+39+49)\div 5=41$   
答え  $41\text{ cm}$

② 式  $(3+8+6+12+0+4)\div 6=5.5$   
答え  $5.5\text{ m}$

11 式  $480\div 8=60$   
 $350\div 5=70$   
答え 5個で350円のみかん

12 ① 式  $175\div 35=5$   
答え 秒速5 m

② 式  $80\times 4=320$   
答え  $320\text{ km}$

③ 式  $1500\div 75=20$   
答え 20分

13 ① 式  $6\div 15=\frac{6}{15}=\frac{2}{5}$  答え  $\frac{2}{5}$  倍

② 0.4 倍

14 1 辺の長さ…40 cm  
紙のまい数…15 まい

15 3 倍

16 (例)  $1\text{ m}^2$  あたりの児童数は、  
式  $A\cdots 970\div 8600=0.11\cdots$   
 $B\cdots 800\div 7890=0.10\cdots$   
答え B (小学校)

9 ① 三角形の面積 = 底辺  $\times$  高さ  $\div 2$   
 $4.5\times 4\div 2=9$

② 平行四辺形の面積 = 底辺  $\times$  高さ  
 $3.4\times 6=20.4$

③ 台形の面積 = (上底 + 下底)  $\times$  高さ  $\div 2$   
 $(2+3.5)\times 4\div 2=11$

10 <sup>へいきん</sup>平均 = <sup>こすう</sup>合計  $\div$  個数で求めます。

② 0 m もふくめて考えます。

12 ① 速さ = 道のり  $\div$  時間

② 道のり = 速さ  $\times$  時間

③ 時間 = 道のり  $\div$  速さ

13 ②  $\frac{2}{5}=2\div 5=0.4$ (倍)

14 まず、かべの横とたての長さを cm で表します。  
 $2\text{ m}=200\text{ cm}$   $1.2\text{ m}=120\text{ cm}$   
同じ大きさの正方形の紙をすきまなくしきつめる。  
→正方形の1 辺の長さは200と120の公約数  
正方形の1 辺の長さをできるだけ長くする。  
→200と120の公約数のうち、いちばん大きい数  
200と120の最大公約数→40

1 辺の長さが40 cmの正方形の紙は、  
かべの横には  $200\div 40=5$ (まい)、  
かべのたてには  $120\div 40=3$ (まい)ならびます。

15 底辺の長さが等しい三角形は、高さが2倍、3倍、  
…になると、それとともな<sup>ひ</sup>って面積も2倍、3倍、  
…になるので、面積は高さに比例します。  
高さが、 $2.4\div 0.8=3$ (倍)なので、面積も3倍に  
なっています。

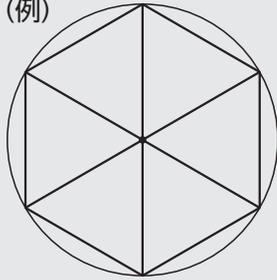
16 ならした  $1\text{ m}^2$  あたりの児童数が少ないほうがすい  
ています。  
ならした1人あたりの面積で<sup>くら</sup>比べると、  
 $A\cdots 8600\div 970=8.86\cdots$   
 $B\cdots 7890\div 800=9.86\cdots$   
ならした1人あたりの面積が大きい小学校の校庭の  
ほうがすいています。



# 春のチャレンジテスト

てびき

- 1 ①  $60^\circ$  ② (例)



- 2 ① 直径 ② 3.14

- 3 ① 式  $2 \times 3.14 = 6.28$

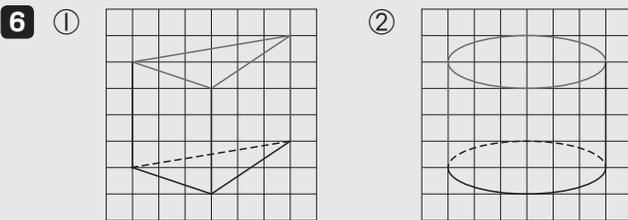
答え 6.28 m

- ② 式  $3.5 \times 2 = 7$   
 $7 \times 3.14 = 21.98$

答え 21.98 cm

- 4 ① 四角柱 ② 円柱  
③ 三角柱 ④ 六角柱

- 5 ① 七角柱 ② エイゼーケーエルエムエヌオー面HJKLMNO  
③ 長方形



- 7 ① 52% ② 70%  
③ 65.4% ④ 125%

- 8 ① 0.07 ② 0.13  
③ 1.35 ④ 0.021

- 1 ① 円の中心のまわりの角を6等分するので、  
 $360 \div 6 = 60$   
② 円の中心のまわりの角を6等分して半径をかき、円と交わった点を頂点ちようてんにします。

別の考え

正六角形の1つの辺の長さは、円の半径と等しいということを使って、かくこともできます。

- 2 ① 円周 = 直径  $\times$  円周率えんしゆうりつ  
② 円周率は、円周の長さが、直径の何倍になっているかを表す数です。円周率は約3.14です。

- 3 円周 = 直径  $\times$  円周率(3.14)

- ② 直径は半径の2倍だから、 $3.5 \times 2$ で、まず、直径の長さを求めます。

- 4 ① 底面が四角形の角柱だから、四角柱です。  
② 底面が円で、側面が曲面だから、円柱です。  
③ 底面が三角形の角柱だから、三角柱です。  
④ 底面が六角形の角柱だから、六角柱です。

- 5 ① 底面が七角形の角柱だから、七角柱です。  
② 角柱の底面どうしは、平行で合同です。  
③ 角柱の側面は長方形か正方形です。

- 6 見えない部分は点線でかこう。  
辺の平行や垂直すいちよくの関係に注意してかこう。

- 7 割合わりあいの1が100%だから、小数の割合に100をかければ、百分率ひゃくぶんりつで表せるね。

- ③  $0.654 \times 100 = 65.4(\%)$   
④  $1.25 \times 100 = 125(\%)$

- 8 100%が割合の1だから、百分率を100でわれば、小数で表せるね。

- ③  $135 \div 100 = 1.35$   
④  $2.1 \div 100 = 0.021$

- 9 ① 65% ② 352 L ③ 180 m<sup>2</sup>

- 10 ① 28% ② およそ  $\frac{1}{5}$

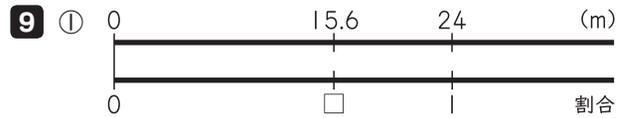
11 ①

正六角形の数 □(こ)	1	2	3	4	5
ぼうの数 ○(本)	6	11	16	21	26

- ② (例) 5本ずつ増える。  
 ③  $6 + 5 \times (\square - 1) = \bigcirc$   
 (または  $1 + 5 \times \square = \bigcirc$ )

- 12 ① 式  $200 - 170 = 30$   
 $30 \div 200 = 0.15$  答え 15%  
 ② 式 (例)  $280 \times (1 - 0.35) = 182$   
 答え 182円

- 13 ① 5年生…10%  
 6年生…15%  
 ② 正しい (正しくない)  
 理由… (例) 5年生のねこを飼いたい人の人数は、200人の25%だから、  
 $200 \times 0.25 = 50$ (人)  
 6年生のねこを飼いたい人の人数は、  
 180人の25%だから、  
 $180 \times 0.25 = 45$ (人)  
 5年生と6年生のねこを飼いたい人の数は同じになりません。



- 10 ① 伝記は、 $68 - 40 = 28$ (%)  
 ② 科学と図かんをあわせると、  
 $89 - 68 = 21$ (%)だから、  
 およそ20%とみて、 $20 \div 100 = \frac{1}{5}$

11

正六角形の数 □(こ)	1	2	3	4	5
ぼうの数 ○(本)	6	11	16	21	26

5本ずつ増える。

上の表より、 $6 + 5 \times (\square - 1) = \bigcirc$   
 また、計算のきまりを使って、 $1 + 5 \times \square = \bigcirc$   
 と表せます。

- 12 ① 割合 =  $\frac{\text{比べられる量}}{\text{もとにする量}}$   
 $200 - 170 = 30$  (売れ残った品物の数)  
 $30 \div 200 = 0.15$   
 (比べられる量) (もとにする量)  
 ② 代金は、100%(ねびきをする前のねだん)から35%をひいた残りの65%のねだんになります。  
 このことを小数を使った式で表すと、  
 $280 \times (1 - 0.35) = 280 \times 0.65$   
 $100\% \quad 35\% \quad = 182 \quad 65\%$

別の考え

35%のねだんを求めて、もとのねだんからひきます。

$$280 \times 0.35 = 98$$

$$280 - 98 = 182$$

- 13 ① 帯グラフから、5年生は  $83 - 73 = 10$ (%)  
 6年生は、 $75 - 60 = 15$ (%)です。  
 ② 割合は、部分と全体、部分どうしを比べるものです。全体の人数がちがうので、5年生と6年生のねこを飼いたい人の数を、割合で比べることはできません。2つの帯グラフから、それぞれの学年の「全体の人数」とねこの「割合」を読み取って、ねこを飼いたい人の数をそれぞれ求めて比べます。

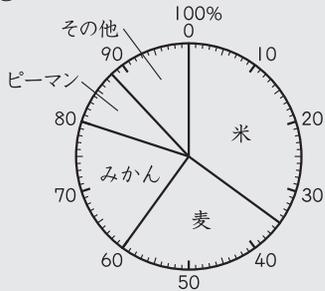
- 1 ①68 ②0.634  
 2 ①0.437 ②20.57 ③156  
 ④3.25 ⑤ $\frac{6}{5}(1\frac{1}{5})$  ⑥ $\frac{1}{6}$   
 3  $\frac{5}{2}$ 、2、 $1\frac{1}{3}$ 、 $\frac{3}{4}$ 、0.5  
 4 ㉠、㉡、㉢  
 5 ①36 ②奇数  
 6 ①6人  
 ②えん筆…4本、消しゴム…3個  
 7 ①6cm ②36cm<sup>2</sup>  
 8 19cm<sup>3</sup>  
 9 ①三角柱 ②6cm ③12cm  
 10 辺AC、角B  
 11 108°  
 12 500mL  
 13 ①式  $72 \div 0.08 = 900$

答え 900t

② ある町の農作物の生産量

農作物の種類	米	麦	みかん	ピーマン	その他	合計
生産量(t)	315	225	180	72	108	900
割合(%)	35	25	20	8	12	100

③ ある町の農作物の生産量



- 14 ①式  $(7+6+13+9) \div 4 = 8.75$   
 答え 8.75本

②㉠

- 15 ①

直径の長さ(○cm)	1	2	3	4
円周の長さ(△cm)	3.14	6.28	9.42	12.56

② $\bigcirc \times 3.14 = \triangle$  ③比例

④短いのは…直線アイ(の長さ)

わけ…(例)1つの円の円周の長さは直径の3.14倍で、直線アイの長さは直径の3倍だから。

- 1 ①小数点を右に2けた移します。  
 ②小数点を左に1けた移します。小数点の左に0をつけて  
 わえるのをわすれないようにしましょう。  
 3 分数をそれぞれ小数になおすと、  
 $\frac{5}{2} = 5 \div 2 = 2.5$ 、 $\frac{3}{4} = 3 \div 4 = 0.75$ 、  
 $1\frac{1}{3} = 1 + 1 \div 3 = 1 + 0.33\cdots = 1.33\cdots$   
 4 例えば、㉡、㉠の速さを、それぞれ分速になおして比べます。  
 ㉡  $15 \times 60 = 900$  分速 900m  
 ㉠ 60kmは60000mで、 $60000 \div 60 = 1000$   
 分速 1000m  
 5 ①9と12の最小公倍数を求めます。  
 ②・2組の人数は1組の人数より1人多い  
 ・2組の人数は偶数だから、1組の人数は、偶数-1で、  
 奇数になります。  
 6 ①24と18の最大公約数を求めます。  
 7 ①台形ABCDの高さは、三角形ACDの底辺を辺ADとしたときの高さと等しくなります。 $12 \times 2 \div 4 = 6$ (cm)  
 ② $(4+8) \times 6 \div 2 = 36$ (cm<sup>2</sup>)  
 8 例えば、右の図のように、3つの立体に分けて計算します。  
 ㉡  $6 \times 1 \times 1 = 6$ (cm<sup>3</sup>)  
 ㉢  $(3+1) \times (5-1-1) \times 1 = 12$ (cm<sup>3</sup>)  
 ㉣  $1 \times 1 \times 1 = 1$ (cm<sup>3</sup>)  
 だから、あわせて、 $6+12+1=19$ (cm<sup>3</sup>)  
 ほかにも、分け方はいろいろ考えられます。  
 9 ③ABの長さは、底面のまわりの長さになります。  
 だから、 $5+3+4=12$ (cm)  
 10 辺ACの長さ、または角Bの大きさがわかれば、三角形をかくことができます。  
 11 正五角形は5つの角の大きさがすべて等しいので、  
 1つの角の大きさは、 $540^\circ \div 5 = 108^\circ$   
 12 これまで売られていたお茶の量を□mLとして式をかくと、  
 $\square \times (1+0.2) = 600$   
 □を求める式は、 $600 \div 1.2 = 500$   
 13 ①(比べられる量)÷(割合)でもとにする量が求められます。  
 14 ②1組と4組の花だんは面積がちがいます。花の本数でこみぐあいを比べるときは、面積を同じにして比べないと比べられないので、㉠はまちがっています。  
 15 ③「比例の関係」、「比例している」など、「比例」ということが入っていれば正解です。  
 ④わけは、円周の長さと直線アイの長さがそれぞれ直径の何倍になるかで比べられていれば正解とします。

